

令和2年第9回尾道市教育委員会（臨時会）会議録

日 時 令和2年8月17日（月） 午後1時 開議
場 所 尾道市教育会館2階 会議室
署名委員 奥田委員

午後1時 開会

○佐藤教育長 それでは、定刻になりましたので、ただいまから第9回教育委員会臨時会を開きます。

本日の会議日程は、お手元に印刷配付のとおりです。

本日の会議録署名委員は、奥田委員を指名いたします。

これより日程に入ります。

議案第46号令和3年度に使用する中学校用教科用図書の採択についてを議題といたします。

○奥田委員 この審議につきましては、情報公開の観点から、できる限り公表が望ましいと思いますが、本案の審査は、採択における適正、公正の確保を期すため、そして委員の自由な意見交換ができるようにするためには、非公開が適切ではないかと思えます。ただし、情報公開は大切なことですので、議事録については公開が妥当だと考えております。

○佐藤教育長 ただいま奥田委員さんから非公開という意見が出ましたけれども、賛否をとりたいと思えます。

賛成の方は挙手をお願いしたいと思えますが、いかがでしょうか。

〔賛成者挙手〕

○佐藤教育長 全員賛成ということを確認します。したがって、議案第46号は非公開審査といたします。ただし、教育委員会議の議事録については、調製後、速やかに公表したいと思えます。

それでは、これより非公開といたしますので、関係者以外の退席をお願いします。

それでは、議案第46号令和3年度に使用する中学校用教科用図書の採択についてを議題といたします。

本議案については、教科書選定委員会から信木会長の御出席をお願いいたしております。

それでは、議案第46号の提案理由の説明を事務局からお願いします。

○**本安教育指導課長** 教育長、教育指導課長。議案第46号令和3年度に使用する中学校教科用図書の採択についての提案理由について御説明いたします。

学習指導要領が改訂され、中学校においては令和3年度から全面実施となるため、尾道市教科用図書採択事務に関する規則第2条の規定により、令和3年度から尾道市立中学校で使用する教科用図書の採択を求めるものでございます。

お手元のファイルに令和2年度審議報告書がございます。この選定委員会審議報告書は、5月の教育委員会議において決定された本市の採択基本方針の2、採択基準に基づいて調査研究を行い、尾道市教科用図書採択事務に関する規則第3条第1項の規定により、選定委員会から報告のあったものでございます。

ただし、社会、歴史的分野の学び舎については、見本本が届いていないため、教科書趣意書と広島県選定資料をもとに調査研究を行うことを第1回教科用図書選定委員会議において確認をしております。

この後、選定委員会会長から審議結果を報告していただきますので、種目ごとに御審議いただければと考えております。よろしくお願いいたします。

○**佐藤教育長** ありがとうございます。

ただいまのところまでで何か御質問、御意見がございますか。よろしいですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○**佐藤教育長** ないようですので、それでは信木会長から選定委員会の審議結果についての御説明をお願いしたいと思います。先生には本当に大変お忙しいところ、まことにありがとうございます。よろしくお願いいたします。

○**信木会長** よろしく申し上げます。選定委員会会長の信木と申します。

ただいまから令和3年度尾道市中学校で使用する教科用図書につきまして、これまでの選定委員会の審議内容を踏まえ、作成した報告書に基づいて説明いたします。

報告書は、教育委員会会議で議決された採択基本方針の採択基準に定められた第1から第5までの観点に沿って、それぞれの特徴をあらわしたものを総合的な所見の中に記載しております。また、特に他の発行者と比較して評価できると考えたものには所見の前に丸印をつけ、その他のことについては中点で示しております。ただし、尾道市の採択基本方針に基づき、尾道教育みらいプラン2の基本方針や重点目標との関連を考慮していること、またそれぞれの教科や種目の特性から、一つ一つの観点の重みが均一であるとは限らないことか

ら、丸印の数と総合的な評価が必ずしも比例するということにはなりません。

それでは、尾道の子供たちにとって、各者、より適した特徴を持つと考えられる特徴を中心に、特に評価できると考え丸印をつけたところとその理由を御説明申し上げます。

初めに、国語について説明いたします。

報告書をごらんください。

国語の教科用図書の発行者は4者です。全ての発行者について調査、審議をした結果、特徴的であると評価した各者の観点について報告いたします。

東京書籍 第1の観点の①と③の視点と、第2の観点の③の視点。

三省堂 第2の観点の①の視点と、第5の観点の②の視点。

教育出版 第3の観点の①の視点と、第5の観点の②の視点。

光村図書 第2の観点の②と③の視点と、第4の観点の①の視点 です。

選定委員会での審議の結果、特に特徴的であると評価したものは、「東京書籍」と「光村図書」です。この2者について、具体的に説明します。

まず、東京書籍。

丸印をつけております第1の観点①、「読むこと」教材の初めに目標を達成するための視点が話し言葉で書かれ、教材の終わりの「てびき」に「目標」、「資質・能力」が示されている。どんな活動をして、何を学ぶのかが明確に示されている。具体例としては、1年生62ページ、「オオカミを見る目」などをごらんください。

③各学年の本編に情報活用に係る単元を設定し、1作品を掲載している。また、同単元内に「話す・聞く、話し合う」活動の教材を掲載している。情報の活用について充実している。1年184ページ、「ニュースの見方を考えよう」や1年192ページ、「学びの扉」から193ページのグループディスカッションにかけてをごらんいただきたいと思います。

第2の観点③、見通しを立てたり振り返ったりする学習のための構成上の工夫。学習の流れが最初に示してあり、題材例が巻末に提示されている。学習の流れに沿って具体的な例やポイントが書かれており、主体的な学習を助けるものになっている。2年生64ページ、郷土のよさを伝えよう、同じく2年生68ページ、推敲のポイントから、また304ページの推敲の観点といった展開をごらんいただきたいと思います。

続けて、特に特徴的であると評価したもう一者、光村図書についてです。

第2の観点の②、「枕草子」は1学期、「徒然草」は2学期に学習する。「枕草子」では書く活動、「徒然草」では話し合い活動が設定されている。主

体的な学習の手引きがしっかりつくられている。2年生の31ページ、自分流「枕草子」を書こうを御参照ください。

③最初に「生かす」として既習内容との関連を示してあり、最後に「つなぐ」として日常生活、学校生活、将来の3つの場面での活用例が示してある。また、これはデジタルコンテンツと関連づけられている。3年生の52ページ、説得力のある構成を考えようなどがその例です。

第4の観点①、単元ごとにQRコードがあり、本文や内容に関連する資料やスピーチの実例などの映像を見ることができる。1年生では28ページ、161ページ、3年生では54ページなどにその例があります。どの単元にもございます。

以上御報告です。

○佐藤教育長 ありがとうございます。

ただいま会長さんから説明をいただきましたけれども、まず国語については、選定委員会では東京書籍と光村図書、この2者が特徴的だという御説明だったように思います。では委員の皆さんにお諮りをしたいと思いますが、選定委員会の報告のとおり、この2者に絞って質疑を進めるということでもよろしいでしょうか。ほかに御意見があれば承りたいと思いますが、いかがでしょうか。

○佐藤教育長 よろしいですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○佐藤教育長 それでは、各委員の皆さんから選定委員会の会長のほうに質疑があれば承りたいと思います。

○村上委員 東書と光村ですけれども、家庭学習する際のデジタルコンテンツは、両方よくできていると思うのですが、東書のほうが若干できばえがいいかなとは思っているのですが、光村もなかなか動画がたくさんあって、子供としては家庭学習をやりやすいかなと思うのですが、その点はどうなのでしょう。

○信木会長 今おっしゃったとおりで、光村のほうは家庭学習を自分で進めるということには向いているのかなと判断しています。それぞれの教材のところにありますので使いやすいということで家庭学習には向いているかと思われま。他者もQRコードはありますけれども、必要な教材のものを選んで使うということなので、どこを使っていいかわかりにくいということがありますので、おっしゃったことに当たると思います。

○佐藤教育長 よろしいですか。ほかに。

○奥田委員 先ほどの質問とちょっと関連しますが、これは国語、事務局にということになるかもわからないのですが、国語だけにかかわらず、今回の教科書

の場合はQRコードというのがかなり利用されていて、それも一つの判断基準になっているところがあると思います。全ての生徒がこのQRコードを利用できるという状況という判断でよろしいでしょうか。iPadとかを全員に配付するとかいろんな動きがあるのですが、このQRコードを全ての生徒が利用できるという状態という考えでよろしいでしょうか。

○**本安教育指導課長** 教育長、教育指導課長。このことについては事務局からお答えをいたします。

現在、タブレットの導入について、今年度中に1人1台端末ということを考えておりますので、令和3年度以降、教科書を使うときにはQRコードを使った活用もできると考えております。

○**奥田委員** わかりました。

○**信木会長** 昨今の事情から、特に家庭で自学できるということは重要になってきていると思われまます。

○**佐藤教育長** ほかにどうでしょうか。

○**村上委員** その際の通信状況等はどうなのですか。尾道市全域、御調から瀬戸田まで大丈夫でしょうか。

○**本安教育指導課長** 教育長、教育指導課長。現在、校内LANの整備について進めておりまして、今年度中に小学校、中学校の校内LANの整備が済む予定ですので、何とか活用についてはできるのではないかなと考えているところです。

○**佐藤教育長** 補足をしますと、インターネット環境については、来年度いっばいで市内全域の光回線が通じるという動きを今総務部で検討中でございますので、そのあたりも来年ということで1年先になりますけれども、対応中でございます。

ほかにございますか。

○**木曾委員** デジタルコンテンツ、大事ですけど、そもそも国語を学ぶ教材として、どの観点が一番重要になるのですか。

○**信木会長** 国語に限らないとも言えるのですけれども、今、日本の教育は学びの変革と言われて、やらされて勉強しているではなくて、主体的に子供たちが学んでいくということが大変重要になってきております。その観点から、主体的に学ぶ、学習に取り組む工夫という第2の観点がより重要な観点であると選定委員会では考えています。

○**豊田委員** 文学的な教材ですね、文学教材、俗に言う。東書と光村と比較して、どちらがどうということはありませんけれども、一長一短がありますけれ

ども、読み進めていく、主体的に読んでいくという面でどちらの者が適切でしょうか。

○**信木会長** 文学的な文章教材で同じ教材をとっているものでちょっと見ていただくとわかりやすいですけれども、1年生に両者とも「少年の日の思い出」というヘッセの、これは翻訳ですけれども、教材が入っております。東書は、学習の手引きを見ていただくと、本文ではなくてその後についている手引きを見ていただくと、表現を捉えて心情を想像しようというようなものが入っています。ただ、その表現自体は、この表現などに注目してというふうにして、もうここに注目してください、この表現に注目してください、あとは想像してくださいとあって、本当の国語の読解力からいうと、その表現自体を自分で見つけていくといえますか、こだわっていくというところが大事なので、少し気がかりなところではあります。対して光村は、語り手に着目するようなところがあって、より深い学びに至ることができるような工夫がされているということで、この教材について両者比較したときには、光村のほうが、教材を大きく捉えよう、展開を捉えようというような、大きく捉えるというような観点が手引きの中に入っている点が評価できると考えました。

○**豊田委員** もう一つ、読解力が劣っているというようなことがOECDの調査でしきりに話題になっておりますけれども、読解力を養成していくためには、もちろん文学教材もそうですし、説明的な文章もそうですし、そういったことをひっくるめて読解力を育てるという構成になっているのは、今の2者のうちの光村なのでしょうか。

○**信木会長** 読解力は国語科の大きな柱ですから……。

○**豊田委員** 大きいです。

○**信木会長** 各者一定以上の水準には達していると判断しますけれども、先ほど申し上げた教材を大きく捉えて展開を捉えてということが、最終的には、ただ文章を受けとめる、受け入れる、受容するっていうだけではなくて、その文章を読んで自分の表現活動に生かすとか、また評価するとかといったような、活用したり評価したりするような活動まで続くことを、そういう学力の形成まで考えたときには、光村の編集のほうがより評価できると考えました。読解力を大きく捉えたときですね。活用、評価まで視野に入れたときには評価できるなと思います。

○**豊田委員** ありがとうございます。

○**佐藤教育長** ほかにございますか。

○**奥田委員** 光村も東京書籍もレベル的には大きな差がなく、完成されている教

科書のように思うのですが、一つ特徴的に、私は、光村が最後のところですかね、資料という形で、学習を広げるという形で文学教材の古典的な、そういう文学教材をしっかりと載せているということは評価できるのではないかなと思っています。選ばれている作品は2者で共通している部分があるのですが、そのところで発展的に学習を広げるという観点で光村は一つ工夫があるのではないかなと私は評価したいと思うのですが。

以上です。

○信木会長 おっしゃったとおり、その発展的な部分が先ほどの主体的な学びともつながっていて、自分で主体的に学びながら、興味を持ったことを探求していくということがこれからの教育では重要なポイントになっておりますので、先ほどの御指摘のとおりだと考えます。

○佐藤教育長 ほかにどうでしょうか。

先ほどの木曾委員さんとの関係で、第2の観点が非常に重要だという御説明だったと思うのですが、この報告書のページで東京書籍は第2の観点の3の視点、それから光村は第2の観点の2と3というふうに複数ありますよね。その特徴的なところでもうちょっと御説明をいただけるとわかりやすいのですが。

○信木会長 東書のほうは③としましたのは、主体的に学ぶというところとのかかわりですけども、見通しを持って学習を進めるという点において工夫が認められ、そこを評価しておるところです。どんなふうに学習が進んでいくのか、流れていくのかというポイントが具体的に明示してあるところですね。光村も同様に見通しを持ってという工夫はあるのですけれども、光村のほうは特に学んだことを、それに加えて、見通しを持って学ぶということに加えて、学んだことを生活の中で活用できるようにという学習の流れが工夫されており、ここはさらに加えて評価できる点だと思います。

○佐藤教育長 ありがとうございます。

ある程度、今御意見、御質問が出てお答えをいただく中で方向性も見えてきたように思うのですが、違う観点で何か御質問がありますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○佐藤教育長 ないようでしたら、国語は終わって、次に書写に移りたいと思います。御説明をよろしくお願ひいたします。

○信木会長 はい。書写について御説明申し上げます。

報告書をごらんください。

書写の教科用図書発行者は4者です。全ての発行者について調査、審議した結果、特徴的であると評価した各者の観点について報告いたします。

東京書籍 第2の観点の①と、第3の観点の②。

三省堂 第2の観点の①。

教育出版 第2の観点の①。

光村図書 第3の観点の①と、第5の観点の① です。

選定委員会での審議の結果、特に特徴的であると評価したものは東京書籍と光村図書です。この2者について、具体的に説明します。

東京書籍。

第2の観点①、「生活を広げよう」で実生活に活用する活動が設定されている。具体的には、2ページの「書写で学ぶこと」、4ページの「書写の学習の進め方」、51ページの「書写のかぎ」などです。

第3の観点の②、書写の歴史について3つの資料で示されている。また、伝統的な言語文化について17個の教材が示されている。その3つの資料とは、28ページ、「文字の成り立ち」、40ページ、「伝統的な用具用材」、61ページ、「文字と絵」です。また、6ページの小学校の学習の振り返りというのも特徴的なポイントです。

続けて、光村図書です。

第3の観点①、第1学年、毛筆教材が15、硬筆記入欄教科書7ページ分あり、書写ブックが9ページ分あります。2学年では毛筆教材が8、硬筆記入欄教科書5ページ分、書写ブック8ページ分、第3学年は毛筆教材5、硬筆記入欄教科書4ページ分、書写ブック4ページ分あります。資料編等も毛筆教材41、硬筆記入欄巻末折り込み1、書写ブック4ページ分あります。書写ブックが有効に活用できるようになっております。といったような工夫が特徴的です。

続けて、第5の観点の①、「日常に役立つ書式」等、学習や日常生活との関連づけがなされた単元の数、1学年3つ、2学年6つ、3学年7つです。116ページの「日常に役立つ書式」を御参照ください。

報告は以上です。

○佐藤教育長 ありがとうございます。

ただいまの説明では、書写については東京書籍と光村図書、この2者が特徴的だという御説明だったと思いますが、委員の皆さんにお諮りしたいと思いますが、選定委員会の報告のとおり、この2者に絞って質疑を進めるということにさせていただいてよろしいですか。何か御意見ございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○佐藤教育長 それでは、各委員さんから質問等お願いしたいと思いますが。

○村上委員 光村の場合、これは中身には全く関係ないのですけども、御調西の藤井先生が著者になっておられますので、その点子供たちは、身近な人が著者なので、若干興味を持つのかなとちょっと個人的には思うのですが、ちょっと関係ないですかね。

○信木会長 そういうこともあろうかと思えます。はい。ただ、今回評価ポイントにはしておりませんが、そういうことはあるかとは思えます。

○佐藤教育長 ほかにございませんか。

○木曾委員 光村は、書写ブックって別冊になっているじゃないですか。

○信木会長 はい。

○木曾委員 別冊になることで学びに効果的であるとかいうことはあるのですか、指導とかというのは。

○信木会長 はい。その別冊ブックが光村の特徴なのですけれども、使い勝手がよいと調査委員の先生からは御報告を受けております。

○佐藤教育長 ほかにございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○佐藤教育長 それでは、私から。これは先ほど国語だけに限らず、第2の観点で学習指導要領からしても重要な観点だということで説明がありました。これは書写のほうも一緒だろうと思えますけれども、先ほど評価をされた部分で言うと、東京書籍が第2の観点と第3の観点、それから光村図書については第3の観点と第5の観点になっているのですね。そのあたり密接に生活にかかわってというところの説明等においても2の観点で評価をされたり、ほかの5でしたか、ほかで評価をされたりというのがまちまちになっておりますが、そのあたりはどのような選定委員会での評価だったのでしょうか。

○信木会長 はい。これは書写という教科の特性も考えまして、特に実技教科ですから、主体的なということは当然成立しなくてはいけないことではあるのですけれども、今おっしゃった中の日常生活に生かすというところが非常に重要なのではないかと、教科の特性上ですね。学校での学びに終わらずに、それを日常生活に生かしていける、学んでいることの意味を実感するということが重要かと考えました。その点については、どちらの者も主体的な学びにつながるような工夫がされていると判断します。ですから、光村のほうで特にここに丸印をつけておりませんが、光村のほうも日常生活に生かす主体的な学びの活動は工夫されております。さらに少しつけ加えて言うと、光村のほうは入学願書等、実用的な、これまでの教科書になかったような例も取り上げられている点は非常に興味深い、評価してよい点ではないかなと考えます。

○佐藤教育長 ありがとうございます。

ほかにございますか。よろしいですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○佐藤教育長 ないようですので、書写を終えて、次の社会の地理へ移りたいと思います。説明よろしくお願ひします。

○信木会長 地理的分野について御説明申し上げます。

発行者は4者です。全ての発行者について調査、審議した結果、特徴的であると評価した各者の観点について報告いたします。

東京書籍 第2の観点の②、第4の観点②、第5の観点①。

教育出版 第4の観点②

帝国書院 第1の観点②、第4の観点②、第5の観点②。

日本文教 第2の観点②、第5の観点② です。

選定委員会での審議の結果、特に特徴的であると評価したものは、「東京書籍」と「帝国書院」です。この2者について、具体的に説明します。

まずは東京書籍。

第2の観点の②、第4章、「地域の在り方」の「身近な地域の課題を見つける」では、17の持続可能な開発目標、SDGsと言われているものです、の一つ、「住み続けられるまちづくりを」に関連させ、グローバルな視点を持たせ取り組むことができる等、主体的な学習を喚起するものとして有効である。270ページの「身近な地域の課題を見つける」を御参照ください。

第4の観点の②、QRコードを活用すると、静止画だけでなくシミュレーションやクイズなどの多彩な内容を閲覧できるため、学習意欲を高めることができる。例としては5ページをごらんください。

第5の観点①、単元のまとめに「探究のステップ」を記載することで、単元を貫く「探究課題」と1時間ごとの学習をつなげ、円滑に課題を解決することができる。72ページから73ページ、218ページから219ページなどにこの「探究のステップ」がございます。また、56ページ、急速な都市の変化などには、1時間ごとの学習を表でつなげ、探究の視点を意識させるような工夫もあります。

続いて、帝国書院。

第1の観点②、我が国の国土と歴史に対する理解と愛情や国際社会で主体的に生きていくための基盤となる知識、技能を身につけさせる工夫です。考察内容は、自然環境、交通や通信、環境保全、産業、人口や都市と村落、生活文化である。海に囲まれた日本の領域の特色として、国際法に基づく領土として歴

史的な経過や地図や本文やコラムで示し、島と2国間の距離を明確に示すことで位置関係が理解できる。「地理プラス」、「共生」、「環境」、「防災」、「解説」というコラム欄を設け、「技能をみがく」を23テーマ設けて網羅していくことができる。20ページまた97ページ、99ページ等、先ほどの説明の具体例がございます。

第4の観点②、QRコードを活用すると、独自のアニメーションを使った資料が使用できる。特に技能に関する手順などが詳しく説明されている。巻頭の3ページのQRコードなどがその例です。

第5の観点②、収集した情報をもとにお互いの考えを深めていく工夫です。「章もしくは節の学習を振り返ろう」では、学習した知識をもとに地理的な見方、考え方を働かせながら主体的、対話的に「章、節」の問いを振り返ることで深い学びにつなげることができる。65ページの情報の収集についてなどはそれに当たります。

報告は以上です。

○佐藤教育長 ありがとうございます。

ただいまの説明では、社会（地理）においては、選定委員会では東京書籍と帝国書院のこの2者が特徴的だということで評価があったと説明をいただきましたが、この2者に絞って質疑を進めるということではよろしいですか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○佐藤教育長 それでは、委員の皆さんから質問等をお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。

○豊田委員 我が国の領土問題について、公民にももちろんあったのですが、この地理の教科書の中で、東書は26ページから27ページにかけて、我が北方領土、竹島と尖閣諸島等について書いてあったのですが、帝国書院のほうはちょっと見当たらなかったのですが、項を起こしてありましたか。

○信木会長 ページを事務局のほうでお示してください。帝国書院のほうは20ページ、21ページ。これは、この2者に限らず、必ず扱わなくてはいけない内容になっています。

○豊田委員 必ず扱う内容なのですね。

○信木会長 はい。

○豊田委員 観点とかで記述の仕方の面で違いがありますでしょうか。

○信木会長 帝国のほうは、先ほどの説明の中でも言いましたけれども、地図とか本文とかコラムとかいろいろ媒体を変えながら示しているのと、図版が2国間の距離や島との距離を示して位置関係を示すなど、具体的にイメージとして

つかむことができるような工夫がしてあるというところは特徴としてあろうか
と思います。

○豊田委員 はい、わかりました。

○佐藤教育長 ほかに。

○村上委員 帝国書院と東京書籍の竹島の記述ですけども、両方、不法に占拠さ
れているという言葉が入っているのですけども、帝国書院のほうは、もともと
我が国の領土で、昔漁業をやっていたという記載があるのです。根拠があるの
だけど、東京書籍のほうは特にそれがないような気がするのですが、それはど
うなんでしょうか。

○信木会長 そうですね。今おっしゃった記述自体は、この記述の中には見当た
らないですね。扱い方の違いとしては、単元のというか内容の中に北方領土、
竹島と尖閣諸島というふうに具体は示してありますけど、この左のページのコ
ラムのような扱いになっていますね。それに対しまして帝国書院のほうは、一
つの項目として扱っている。北方領土や尖閣諸島と並んで、その間に一つの大き
な項目として扱っているというその扱い方の違いはおっしゃるとおりあると
思います。

○村上委員 北方領土も同じような記述ですかね。

○信木会長 そうですね。

○村上委員 要は帝国書院の場合は、もともと日本人が住んでいたというふう
に、追っ払われて占拠されたのだけども、東京書籍のほうは特にそのような記
述がないような気がするのですが、どうなのでしょう。

○信木会長 そうですね。記述の仕方に違いはあります。

○佐藤教育長 ほかにございますか。

○奥田委員 例えば帝国書院の場合、特徴的だなと思いましたが、「未来に向
けて」というコラムが設けられていまして、いろんところで、非常にポイン
トとなるような何か現代の、例えば69ページでしたら水の都ベネチアが沈むと
か、いろいろな子供たちが関心を持ちそうなところをポイントとして考えさせ
る、興味・関心を引き起こすような、そういうところがぽつりぽつりと教科書
の中にあるというのが、工夫というか、これが一つの魅力になっているのかな
と思うのですが、そのあたりはどうなんでしょうか。

○信木会長 今おっしゃっていただいた興味・関心を喚起するという点ももちろ
んあると思いますし、さらにつけ加えて言うなら、今御指摘になったような環
境のところなどは、これからの世界を考えていくという非常に重要な視点では
ないかと思います。既に確立した過去の知識を詰め込んでいくのではなくて、

これからの社会をつくっていく子供たちを育てるという教育の使命にかかわるようなことなのではないかというふうに思いますので、今御指摘になったようなこれからの世界、社会を考えていくという視点を大切にしているというのは高く評価できるポイントであろうと思います。

○佐藤教育長 小学校の採択のときだったでしょうか、地理的な部分で知識を活用して多面的、多角的に考察して、思考・判断をして課題を解決する力が求められているのですよというような、そういう力をつけることが大事だということがありましたが、その観点でいったら先ほどの説明でいえば東書のほうがということになるのでしょうか、どちらになるのでしょうか。帝国のほうになるのでしょうか。

○信木会長 社会科というと内容教科だけに、知識の暗記のようなところに子供たちの目が向いたのでは大変残念なことになってしまうので、今おっしゃっていただいたところは非常に大事なところだと思います。

○佐藤教育長 もう一つ、先ほどの説明の中で東書のほうにはグローバルな視点をということが特徴としてあったのですけれども、そのあたりのところは。

○信木会長 はい。東書のほうはそのグローバル視点で、大きな視点で課題を捉えていく、現代の課題を捉えていくというそういう特徴はすぐれた点としてあります。

○豊田委員 東書も、それから帝国も、基礎的な学習といいますか、基礎・基本に立ったところの学びのようなものを丁寧にどちらも取り上げて学習するようになっておりましたので、この点はすばらしいと思いました。あわせて、帝国のほうで学習課題を決めて、そして確認しようとか説明しようとかやってみようとか、それから振り返りも含めて、現代の学び方をきちんとそこに書いてあって、そして最終的には対話的で深い学びになるような学習手順であったりとか、説明をしようというふうな表現力を高めるという、これからの大事な視点が中心に据えられていて、非常によくできているなど私は思いました。

○信木会長 同様に考えています。おっしゃるとおりだと思います。

○佐藤教育長 ほかにございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○佐藤教育長 それでは、ある程度質問も出尽くしたように思いますので、以上で地理を終結して、今度は歴史へ移りたいと思います。説明をよろしくお願ひします。

○信木会長 はい。歴史的分野について御説明申し上げます。
報告書をごらんください。

歴史的分野の教科用図書の発行者は7者です。全ての発行者について調査、審議をした結果、特徴的であると評価した各者の観点について報告いたします。

東京書籍 第1の観点② 第2の観点① 第4の観点② 第5の観点②
教育出版 第2の観点① 第4の観点①
帝国書院 第1の観点② 第2の観点① 第5の観点②
山川出版 第3の観点① 第4の観点①
日本文教 第2の観点① 第4の観点① 第5の観点②
育鵬社 第1の観点② 第3の観点①
学び舎 第1の観点② です。

選定委員会での審議の結果、特に特徴的であると評価したものは、東京書籍と帝国書院と日本文教出版の3者です。この3者について、具体的に説明します。

東京書籍。

第1の観点②、索引に示されている人名の数は351である。そのうち現代で扱われている人物の数は36である。また、国宝、重要文化財、世界遺産、世界の記憶、無形文化遺産の資料にマークをつけることにより文化遺産を示している。神話、伝承等に関する事例数は5である。290ページの索引で御確認をください。また、54ページに神話、伝承のことについて触れています。

第2の観点の①、主体的に学習に取り組めるように、大項目の導入において絵図や写真で示し、人物や事象のイラストを用いた年表を掲載している。また、キャラクターの問いにより学習への興味、関心を高めようと構成している。「探究課題」、「探究のステップ」により生徒の問いを喚起し、主体的な学びが行われるよう工夫されている。62ページや63ページが今申し上げたこと具体例です。

第4の観点②、側注の掲載数は115であり、QRコードを活用した学習コンテンツが35あり、学びを深めたり広げたりする効果がある。5ページにQRコードの例が、232ページ、233ページに側注の例がございます。

第5の観点②、「聖徳太子たちはどのような国づくりを目指したか、グループで話し合いませんか」など、話し合い活動を「みんなでチャレンジ」というタイトルで設定し、毎時間、説明する活動「トライ」が示されており、主体的な学びを促している。36ページ、37ページにその例があります。

続けて、帝国書院。

第1の観点②、国際関係や文化交流に関する時代区分別のコラム等の数は、

古代までが4、中世が5、近世が5、近代が13、現代が10である。100ページ、101ページにその例がございます。

第2の観点①、主体的に学習に取り組めるように、大項目の導入において絵図を読み取り問題形式で示し、写真や絵図の人物を用いた年表を掲載している。また、学習内容について、前の時代と比較して時代の特色を考察させることにより興味、関心を高めようと構成している。58ページ、59ページに導入の工夫が見てとれます。

第5の観点②、「グループになり、自分が考えた『近代化』の総合判定を理由とともに発表しよう」など、話し合い活動を章末に設定し、毎時間、説明する活動「説明しよう」を設定し、章末にも説明する場面をつくるなど、生徒の思考を促している。209ページ、211ページにその例があります。

日本文教。

第2の観点①、主体的に学習に取り組めるように、大項目の導入において、見開き2ページにより絵図で歴史的事象を示している。続く2ページで、「何々世紀の日本と世界」というタイトルで地図や年表を掲載している。また、キャラクターの問いやめあてにより興味、関心を高めようと構成している。64ページ、65ページにその例があります。

第4の観点①、掲載資料の内訳は、写真105、絵図78、地図35、図表・グラフ37、文書資料31、年表38、人物49であり、資料活用の視点が示されており、知識・技能の活用が考えられている。76ページにその例があります。

第5の観点②、「サルとヒトの違いは何かを読み取り、話し合ってみましょう」など、話し合い活動を各章の導入や「チャレンジ歴史」というタイトルで設定し、毎時間、説明する活動「確認」を設定している。14ページ、15ページ、また254ページ、255ページなどにその例があります。

説明は以上です。

○佐藤教育長 ありがとうございます。

ただいまの説明では、歴史については東京書籍、それから帝国書院、日本文教出版の3者が特徴的だという御説明だったと思いますが、選定委員会の報告のとおりこの3者に絞って質疑を進めるという方向で整理してよろしいですか。何か御意見ございますか。よろしいですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○佐藤教育長 それでは、その方向で質疑をしていきたいと思っております。御意見、御質問をお願いいたします。

○豊田委員 先ほど御説明いただいたのですけれども、歴史的な見方・考え方と

いう観点に立って、3者の大きな違いといたしますか、特徴といたしますか、そういったものがありましたら教えていただきたいと思ひます。

○信木会長 これは特に第2の観点のところから説明させていただいたほうがいかと思ひますのですけれども、東書は先ほどの「探究のステップ」などで、探究という活動に重点を置かれていて、これが主体的な探究活動ということになるのですけれども、これが大きな特徴。帝国と日文は、興味・関心を高めようというところにより重点があるというふうに評価いたしました。子供たちが主体的に活動するところに特徴があるか、興味・関心を高めるか。もちろん興味・関心を高めることで主体性をということはあるのですけれども、その活動自体を工夫するか、導入のところで引き込むところを工夫するかといったところの評価の違いがあろうかと思ひます。

○佐藤教育長 ほかにござひますか。

○木曾委員 3者の観点で、第2の観点の①と第5の観点の②というのは3者ともいいと判断、丸がついているということなのですが、尾道の子供たちが学ぶ上で3者を比較したとき、どれが一番有効的なのですか。

○信木会長 まず、その第2の観点、第5の観点はすごく近いところであって、第5の観点が言語活動で、説明をする活動ですね。説明を自分でするという活動と主体的に学ぶということは、非常に同様の同じことを別様に言っているだけというところがあって、御指摘のとおりのことになっているというのが一つです。

それから、尾道の子供たちにとって何が有効かということですが、特に歴史につきましても、どんなふうに資料を見せていくか、その資料の見せ方で子供たちの思考が働いていくという、喚起されて動き始めるということがありますので、尾道の子供たちに頭を動かしてほしいという観点からいうと、視覚的な資料で興味・関心を持たせるという点が非常に大事なことになるのではないかなと思ひます。そういう点では東京書籍の見せ方がうまいというふうに評価できます。

○佐藤教育長 ほかにどうでしょうか。

○奥田委員 この帝国書院の特徴として、説明にもござひましたが、観点1のところ、基礎・基本の定着の中で、国際社会の中で主体的になる、基礎・基本を身につける工夫があるということが、3つの教科書を読んだ中では、帝国書院が国際関係の中で明治維新からの動きとか、いろんな歴史を見るときにかなりそこが意識されているなという感じがして、これは一つの評価できるポイントではないかなと思ひたのですが、そのあたりはいかがでしょうか。

○信木会長 はい。そのとおりだと思います。歴史を見るとときに、一国の歴史を狭い視野から見るのではなくて、非常に大きなグローバルな視点から歴史を捉えていくということは非常に重要な観点ではないかと思います。

○佐藤教育長 ほかにどうでしょうか。

昨今では近代とか現代とかそういったところのボリュームのことになるのだろうと思いますが、教科書を逆に記述したらどうかというような御意見もよく聞きますけれども帝国はボリュームのところが特徴的に書いてありましたけど、私自身は近代とか現代のところにウエイトを置きながら子供たちの思考を深めてほしいなと思うのですが、そのあたりについて、他者はどんなでしょう。帝国と東京書籍のほうのボリューム感というのでしょうか、内容的な分量について。

○信木会長 どこを、より手厚く扱うかという問題ですけど、そのこと自体をプラスに評価するかという判断は選定委員会ではしておりませんが、個人的な意見をここで申し添えますと、おっしゃったように特に現代につながる、歴史というのは、やはり、いかにして今があるのかということを理解する、今の私たちを理解することにもなるかと思いますが、古いところだけを勉強するのではなく、そのつながり自体が大事で、特に近現代とのつながりというところはやはり重要だと考えています。

○佐藤教育長 ありがとうございます。

いかがでしょうか。

○奥田委員 歴史ですので、知識を理解し、地域の中からいろいろな歴史を考えるとということも必要になってくると思いますが、このQRコードの扱いといたしますか、各者の充実度といたしますか、自学自習の中で歴史的な知識を押さえながら歴史を考えるとという観点でのQRコードの利用の仕方については何か意見交換されましたか。

○信木会長 はい。QRコードを使った学習のコンテンツの示し方につきましては、東書のものが子供たちが興味を持って見ることができるという点で評価できるという意見が出ております。先ほど申しましたように、資料の見せ方と相まって東書の視覚資料は学習に有効だという、調査員の先生からの御意見をいただいております。

○佐藤教育長 丸の部分からいっても、東書が4つでほかが3つという、やはりそのところは選定委員会では大きな評価であったのでしょうか。

○信木会長 少し補足ですが、一つ前の御質問の近現代の扱いですけれども、東書は近代102、現代32です。帝国は近代108、現代30となっております、日文

が近代102、現代38で、ほかの時代から比べると、例えば近世なんかは50前後ですから、特に近代を重点的に扱っているというのは各者共通といえますか、どの者もそうです。合計した数自体でいうとそんなに大きな差ではないです。

○佐藤教育長 ないということですね。

○信木会長 はい。

○佐藤教育長 ありがとうございます。

よろしいですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○佐藤教育長 それでは、質問等もある程度出尽くしたように思いますので、次に社会の公民に移りたいと思います。御説明をお願いします。

○信木会長 公民的分野につきまして、報告書をごらんください。

発行者は6者です。全ての発行者について調査、審議した結果、特徴的であると評価した各者の観点について御報告します。

東京書籍 第1の観点② 第2の観点① 第3の観点② 第5の観点①

教育出版 第2の観点② 第3の観点②

帝国書院 第2の観点① 第3の観点② 第5の観点①

日本文教 第1の観点② 第3の観点② 第5の観点①

自由社 第1の観点②

育鵬社 第1の観点② 第3の観点② です。

選定委員会での審議の結果、特に特徴的であると評価したものは、東京書籍と帝国書院と日本文教出版です。この3者について具体的に説明いたします。

東京書籍。

第1の観点②、「対立と合意」、「効率と公正」の扱いについて、身近な学校での問題や地域の問題を取り上げることで興味、関心を抱かせ、対立から合意に至る話し合いの手順を、「みんなでチャレンジ」で小集団の協働的な活動を通して対話的な学習を実践している。26ページから31ページ、27ページ、29ページにその例があります。

第2の観点①、大単元の導入において、興味・関心を高める問いや資料や絵図や表・グラフを活用して示している。各章の導入部分で単元全体を貫く「探究課題」を設定している。「探究課題」を立てる活動で単元全体の学習に見通しを持たせる等、探究的な学習が設定されている。214ページ、215ページに持続可能な社会の形成のための探究が出ておりますので、これを御参照ください。

第3の観点②、「スキルアップ」、「公民にチャレンジ」として計30項目を

設定し、個人、グループの活動が提示されており、課題の把握・解決を通して考えを深めるのに効果的である。79ページ、85ページにその例があります。

第5の観点①、章末に、「探究のステップの問いを解決しよう」、「まとめの活動」を設け、学んだことを活用する活動を記載しています。具体例は、68ページ、69ページをごらんください。

帝国書院。

第2の観点の①です。大単元の導入において、興味・関心を高める資料や説明文を掲載している。各章の導入部分で学習課題を示し、見通しを持たせている。1、2ページに興味、関心を高める絵図が出ております。

第3の観点②、「公民プラス」、「技能をみがく」として計35項目を設定し、ディベートやロールプレイングなど、課題の把握・解決に向けて効果的な活動を記載している。4ページ、71ページにその例があります。

第5の観点①、章末に「章の学習を振り返ろう」を設け、重要語句を説明する問いと見方・考え方を働かせて解く問題を記載している。25ページ、26ページがその例です。

続いて、日本文教。

第1の観点②、「対立と合意」、「効率と公正」の扱いについて、身近な学校での問題や地域の問題を取り上げている。アクティビティで合意の方法をイラストで示し、2つの例のふさわしい合意を考えさせ、理由を説明させている。26ページから29ページがそのページです。アクティビティは27ページ、29ページにあります。

第3の観点②、「アクティビティ」、「明日に向かって」、「チャレンジ公民」として計50項目を設定し、チャートやグラフの作成、話し合いの活動を記載している等、現代社会の課題に関心が持てるよう工夫されている。118ページ、119ページが例です。

第5の観点①、調べたことや考えたことを適切に表現する力を育成するための工夫です。章末に「学習の整理と活用」として、「学習内容と語句の整理」、「見方・考え方に関する資料」、「シンキングツールを使う」問いを設けており、思考を深めるのに有効である。174ページ、175ページにその例があります。

以上です。

○佐藤教育長 ありがとうございます。

ただいまの説明では、公民においては東京書籍、帝国書院、日本文教出版、この3者が特徴的だという御説明だったと思いますが、この3者に絞って質疑

を進めるということによろしいですか。

○村上委員 拉致の問題が3者の場合は非常に小さく、7センチと8センチ角ぐらいで取り扱われておりまして、育鵬社と自由社のほうは2ページ丸々割いておりますので。この丸の観点が育鵬社が2つ、自由社が1つなので、両方拉致の問題が2ページなので、育鵬社を入れていただければと思います。

以上です。

○信木会長 これは私がお答えするのではなくて、御要望ですよ。

○佐藤教育長 審議の対象にと。

○村上委員 そうです。

○佐藤教育長 3者が特徴的だという部分の中に育鵬社を入れて、4者で質疑ができないかということだったと。

○信木会長 選定委員会では個別の項目の扱いがあるなしとか手厚いか薄いかということでの評価はしておりませんので、その価値づけについてはまた委員会で御審議いただければと思います。

○佐藤教育長 教育委員会の中での審議の中でということになりますかね。わかりました。

御質問ございますか。

○奥田委員 先ほど村上委員が言われた拉致の記述は何ページでしょうか。

○村上委員 育鵬社が184ページから185ページ。ほかの東書が205ページ。東書が202ページで、帝国は176。日文が195。

○佐藤教育長 今、拉致の部分のということで、選定委員会ではその一つの項目の部分についての議論はされてないということなので、我々の後の議論で、先生に直接その御説明を求めることになりませんので、ほかの項目等でお聞きになりたいようなところがございませうか。

先生、3者の特徴的な違いといえ、やはり先ほど歴史のところでもあったのですけれども、探究的などという部分についてはやはり東書の特徴なのでしょう。

○信木会長 はい。東書は単元を貫く課題の設定というふうに、単元を貫く言語活動ともいうのですけれども、そこに工夫がある。例えば章をずっと通して一つの大きな学習活動として捉えられている。何々は何だろうかというような大きな問いを持って、その問いを明らかにするための探究活動をその単元を通して行うというようにところに工夫がされていると言えます。また、それを最終的にまとめるところも重視していると考えました。帝国は、導入の工夫や思考を深めるためのヒントになるような工夫がされているところが特徴だと言えま

す。日文につきましては、まとめの工夫と話し合いで思考を深めるというところに特徴があるというふうに考えました。

○佐藤教育長 実際に議論をどこまでさせているのかというのはわかりませんが、育鵬社の特徴というのは何になるのでしょうか。

○信木会長 育鵬社につきましては、第1の観点のところの②のところをごらんいただいて、この「対立と合意」、「効率と公正」というのはどの教科書でも扱う内容ではあるのですが、身近な学校での問題を取り上げているというところで、子供たちが自分の身近なところからこの問題を考えられるというふうになっているところに特徴といいますか評価できるポイントがあると考えます。また、これからの社会では、異なる立場の人がどんなふうと一緒に暮らしていけるか、生きていけるかということの合意形成をどうするかということが非常に重要になってくるのですが、そのプロセスを例としてイラストや吹き出しで示してあって、こうした点もすぐれた点として評価できると考えています。

第3の観点の②もすぐれたところとして上げておりますけれども、シミュレーション化という話し合いの活動を記載しているということが、ここは有効だろうと考えています。

なお、このことについては、話し合いというような言語活動については、この者に限らず、公民科においては非常に重要だと考えています、教科の特性上ですね。特に協働的な活動、人と一緒に活動することとか対話的な活動をするというのは、公民科においては非常に重要なポイントだろうと考えております。重点的に、同じ丸でもそこは重みづけをしていいポイントだということですね。

○木曾委員 これからの子供たちが未来に向かって成長していく段階でSDGsというのは今すごく力を入れていると思います。社会的に。この取り扱い方としてどの者が一番有効的に取り上げられていますか。

○信木会長 おっしゃっていただいたところは、特に公民、どの教科でもSDGsは視野におさめておくべきことなのではあるのですが、現代的な課題にどう取り組んでいくかというのは特に公民科では重要度が高いのではないかと考えているところです。実はどの者もこの分野については扱っています。特に現代的な課題の中で公民科としては主権者教育をどう扱っているかということが重要になってくるだろうと思います、公民科の特性上ですね。環境問題よりは主権者教育のところのほうが、教科の特性上強くかかわるというふうには言えると思います。政治参加などですね。

今のを例にとりますと、東書の場合は選挙ってなぜ大切なのかっていうそこから学習に入っていくようになっていて、子供がなぜと興味を持つところからの課題設定がしてあるところが特徴です。帝国の場合は、同じところでは、国の政治において選挙がどのような仕組みで行われているのだろうというような、教科の内容理解に重点が置かれているような課題の設定の仕方ですね。何で大事なのって子供の視点から入っていくのか、どんな仕組みになっているのかっていうふうにいきなり教える側の視点から問いを起すかっていう、そこが大きな違いじゃないかと思いますね。日文は、選挙は何のためにあるのかっていうのと、どのような選挙制度があり、特徴が何かっていうふうに、その3つの問いを併置する形で並べている。どれが子供たちに有効かっていうことなのですけども、子供の目線で問いを設定して、興味を持たせて主体的に学ばせるというのが有効ではないかなと考えました。

SDGsの扱いについてそれぞれ言いますと、東書は見開き1ページで扱う。帝国は、1コーナー設けるという扱い。日文は、最初の巻頭の見開きに写真やコメントで大きく扱って、見開きで1時間の授業が設定されていると。そういう扱い方の違いはあります。おっしゃっていただいたSDGsにつきましては、広島県でも力を入れており、尾道市でも力を入れたいところであります。

○佐藤教育長 ほかに。

○村上委員 成人年齢が18歳にもうすぐなるのですけども、この子たちが卒業してすぐ法的な行為ができるようになるのですけど、どの者でも契約を入れているのですけども、契約事ですね、育鵬社の場合は具体的にクーリングオフの文例等があるのですけども、ほかの会社のそこら辺の取り扱いというのは何か特徴がありますか。

○信木会長 契約ということについてどうかというような検討はしていません。これも各者ごらんいただいて御判断いただくしかないかとは思いますが。これも個別の項目の扱い方に。

選定委員会でどこを見たかという、特に選挙権が18歳からということになったこともあって主権者教育のところと、今のSDGsのところとかといったようなところは特に重点的には見ました。

○佐藤教育長 ほかにどうでしょうか。よろしいですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○佐藤教育長 質問のほうも出尽くしたように思いますので、続いて地図のほうを御説明いただきたいと思います。説明お願いいたします。

○信木会長 地図について説明します。

報告書をごらんください。

全ての発行者について調査、審議した結果、特徴的であると評価した各者の観点について説明します。

東京書籍 第4の観点① 第5の観点②

帝国書院 第4の観点① 第5の観点② です。

この2者について、具体的に説明します。

東京書籍。

第4の観点①、「Dマーク」を記載し、白地図や関連情報を閲覧できるウェブページへのリンクを設けており、生徒の家庭学習にも活用することができる。資料集として充実している。1ページから3ページにQRコード、6ページに地図の活用法があります。

第5の観点②、キャラクターの吹き出しで地図の活用方法や課題を探究するための問いを記載しており、問いに対応した主題図を示すことで収集した情報を用いた表現の例を知ることができる。12ページにその例があります。

帝国書院。

第4の観点①、各ページのタイトルの横にQRコードを記載し、動画や世界・州別衛星画像、日本の基礎主題図などが閲覧でき、主体的に学習し、資料活用能力を高めることができる。地図帳として活用しやすい。

第5の観点②、「地図活用」や「学習課題」を記載しており、社会的な見方・考え方を働かせた学習活動の例を示すことで、主体的、対話的で深い学びに近づくことができる。15ページ、16ページに地図の活用、15ページの上、学習課題のところに学習活動の例が出ております。

以上です。

○佐藤教育長 ありがとうございます。

御意見、御質問お願いします。

これは2者とも特徴的な観点は評価も同じような感じですね。大きく違えば資料的なものなのか、地図帳としてのというようなところが大きく違っていたように思います。

○信木会長 そのとおりであります。資料はどうしても資料集なども使いますので、資料集的であるということについては資料集で補えるというふうにも考えることができるというのが選定委員会の意見の中にあります。

○佐藤教育長 質問はよろしいですか。

小学校も地図は帝国だったですね。我々も昔から地図は帝国という印象が

ありますけれども。よろしいですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○佐藤教育長 ないようですので、地図のほうは終わらせていただいて、次に数学のほうへ移りたいと思います。よろしく願いいたします。

○信木会長 数学について御説明申し上げます。

報告書をごらんください。

数学の教科用図書の発行者は7者です。全ての発行者について調査、審議した結果、特徴的であると評価した各者の観点について報告します。

東京書籍 第1の観点① 第3の観点① 第4の観点①

大日本図書 第1の観点① 第5の観点①

学校図書 第1の観点② 第2の観点③

教育出版 第2の観点① 第3の観点②

啓林館 第1の観点① 第3の観点② 第5の観点①

数研出版 第1の観点① 第2の観点②

日本文教 第2の観点② 第5の観点②

選定委員会での審議の結果、特に特徴的であると評価したものは、東京書籍と学校図書と啓林館です。この3者について、具体的に説明します。

東京書籍。

第1の観点①、「例」ではつまずきやすい問題も取り上げ、丁寧に取り扱ったり、問題を解くための見通しを「考え方」として示したりしている。「例」と類似する「問」にはひし形の印をつけ、例を参考にできるようにしている。また、典型的な誤答を「まちがい例」として取り上げている。生徒個々の実態に応じて基礎・基本の定着が図れるものになっている。1年の78ページなどがその例です。

第3の観点①、素因数分解は正負の数の前に掲載し、累乗を使った素因数分解の表し方は別ページの正負の数の乗法にて扱っている。また、約数の求め方が掲載してある。丁寧な解説を施すことで、理解の難しい生徒に配慮している。1年生の9ページから16ページなどがその例です。

第4の観点①、2年、「データの比較」では、イラストが4カ所、写真が2枚、吹き出しが11カ所あり、問題場面が具体的にイメージできるように示されている。デジタル教材の内容の質が高い。2年177ページ、イラストの例は186ページ、写真の例は178ページなどです。

学校図書。

第1の観点②、単元の前に既習事項の振り返りを配置し、各学習内容の導入

で既習事項を示し、学習の手がかりになる問いかけを示している。節末の後にさらに練習するための問題を示している。節末において、理解が不十分な場合は本文に戻ることができるよう関連する内容、ページ、例や問題番号を明記している。2年69ページの「ふりかえり」や94ページの関連ページ、関連するページ数の提示など、105ページの「ふりかえり」などを御参照ください。

第2の観点③、SDGsに関連し、数学を生かして自分たちに何ができるかということ考察する課題等を取り扱っている。キャリア教育の一環として、数学を実際の仕事に役立てている人のコラムを掲載している。2年216ページなどにその例があります。

続けて、啓林館。

第1の観点①、「例」、「例題」にタイトルをつけ、学習内容がはっきりわかるようにしている。「例題」では解答がノート形式で丁寧に記述してあり、解決の糸口を考え方として示している。また、「誤答例」を示し、誤りを指摘したり、正しくしたりする活動を促している。1年の92ページ、2年の26ページに誤答例があります。

第3の観点②、発展的内容は巻末に7つ掲載されている。内容は、「変化の割合の計算」、「グラフの交点の座標」などがある。「自分から学ぼう編」が家庭学習の充実に有効なものとなっている。3年39ページから40ページなどをごらんください。

第5の観点①、「話し合おう」、「説明しよう」では、自分の考えを伝えられたり深めたりできる課題が設定してある。数学的表現を用いて考えを説明する学習が工夫されている。2年168ページなどがその例です。

以上です。

○佐藤教育長 ありがとうございます。

ただいまの説明では、東京書籍、学校図書、それから啓林館、この3者が特徴的だという評価があったと思います。この3者に絞って質疑を進めるということでもよろしいですか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○佐藤教育長 委員の皆さんから御質問等を受けたいと思いますが、いかがでしょうか。

○豊田委員 数学の場合は、やはり数学的な考え方を大事にするということが一番教科の本質だろうと思うのですがけれども、そういう観点に立って、先ほど御説明がありましたが、東書、啓林、学図ですかね、それでどの者が一番、大事にしておりますでしょうか。

もう一つ加えて、数学的な考え方、数学的な表現の仕方について、ノートのとり方については小学校では非常に大事に今まで実践をしてきたものなのですが、それが中学校へ向けて、非常に今回の教科書の改訂でノートのとり方をどの者も非常に丁寧に、しかも個人の思考が1時間の中でどのように変わっていくかというふうな形で大事にされておりましたのでとってもうれしく思ったのですけれども、思考力という面ではいかがでしょうか。

○**信木会長** 数学的な思考力というのは、各者最も中心に据えているところではあるのですけれども、例えば数学的な表現を使って説明するというような工夫が、先ほどの説明の中でもちょっと触れましたけれども、啓林館の第5の観点にそれに特に当たるのではないかと考えます。

また、ノートにつきましても、啓林館が解答をノート形式で丁寧に解説しているあたりの特徴が、今おっしゃられたことに特に有効ではないかと考えます。

○**豊田委員** ありがとうございます。

○**佐藤教育長** ほかにございますか。

○**奥田委員** 数学を勉強するときに、主体的に学ぶという観点で、例えば予習していくとか復習するといったときに、生徒の学びに対して具体的な、いろいろな多様性のある生徒がそれぞれ主体的に学べるような工夫といたしますか、それがどの教科書に特に見られると考えられますかね。私は比較的、例えば東京書籍などは非常に思考の仕方を丁寧に説明しているように思ったのですけれども、そういう特徴的なもの、主体的に学ぶという観点で見たときの特徴を教えてくださいいただければと思います。

○**信木会長** 主体的な学びというのは主に第2の観点で評価しているポイントではあるのですけれども、そこに特にすぐれたところとして丸をつけているのは実は学図ですね。東書や啓林はほかの項目で特にということで丸印で評価してあるのですけれども、丸がついていないから主体的な学びになってないというわけではもちろんないのですけれども、特にこの項目で他者と比較してぬきんでた有効な工夫があったとした場合にここで丸がついていると。各者がどこも一定水準以上なら差がつかなくなってしまうので、どこも高得点であれば丸がつきにくいということになるので、丸がついていないことで東書や啓林館が劣っているということではもちろんありません。おっしゃったように、学習の手順といたしますか、展開の仕方を俯瞰するといたしますか把握するというのは、東書の教科書のすぐれた点だと思います。これは数学に限らず東書の特徴だと思います。啓林館は、先ほどありましたけれども、言語化する活動といったあたり

で主体的な学びが成立するように工夫されていますので、第2の観点に丸がついておりませんが、啓林などはそういった点では有効なのではないかなと。第5の観点に丸がついていますけれども、近い内容ですので第5の観点のほうで丸がついておりますけれども、先ほど1つ前の御質問にございましたことともかかわりますけれども、啓林館はそうした点は評価できるのではないかなと思います。主体的な活動になると評価できると思います。

○佐藤教育長 ほかにいかがでしょうか。

○信木会長 今回の御質問に対してずばり答えると、第2の観点で丸をつけているのは学図だけですが、今の3者の中では、東書も啓林館もそこは評価できますというのが結論です。

○佐藤教育長 QRコードなんかの使い方で特徴は出ているのですか。

○信木会長 はい。このQRコードを子供たちが自分で実際にやってみて興味、関心を抱くということと、その有効性でいうと、東書のものがすぐれているというのが調査員の報告もそうでしたし、選定委員会のほうの判断もそのような判断です。特にQRコードを使ったデジタルコンテンツが東書のものは有効性が高いと判断しています。

○村上委員 啓林のほうのデジタルコンテンツはかなりよくできているような気がするのですが、数も啓林のほうが多いですかね。家庭学習にはどちらがどうというような判断はできますでしょうか。

○信木会長 コンテンツの数の充実度は、啓林館のほうが充実しています。ただ、内容を見たときに、東書と比較すると、東書のもののほうが有効ではないかと評価いたしました。分量的に充実していますから、啓林館につきましては、学校と家庭の学びの際、学校で学び、それを家庭でまた定着させていくということとをずっと続けてサイクルしていくことが重要になってまいりますので、そうした家庭学習への有効性という点では啓林館は評価できます。特に自分から学ぼうという章といいますか、そういうのが本編のほうもそういう編集になっていますので、そこに力を入れているというふうに判断できます。

○佐藤教育長 ここでいうと最初3者ということだったと思うのですが、今の議論でいうと、もうほとんど2者に絞られて、そのあと特徴的なところがそれぞれ違うということだったのかなというふうに思いますけれど、認識としてはそういう認識でよろしいですか。

○信木会長 私もそのように思います。その残った2者から選ばれば、どちらを選ばれても間違いはないというふうに思います。

○佐藤教育長 特に質問等がなければ、ある程度議論も尽くしましたので、通常

でしたらここで休憩となりますが、もうちょっと進めさせていただいて、時間も押していますので、理科のほうに移りたいと思います。説明をよろしく願いをいたします。

○信木会長 それでは、理科について御説明申し上げます。

報告書をごらんください。

理科の発行者は5者。その全てについて調査、審議した結果、特徴的であると評価した各者の観点について報告します。

東京書籍 第2の観点①と② 第4の観点①

大日本図書 第2の観点① 第3の観点②

学校図書 第2の観点② 第3の観点②

教育出版 第2の観点① 第3の観点②

啓林館 第2の観点①と② 第4の観点① です。

選定委員会での審議の結果、特に特徴的であると評価したものは、「東京書籍」と「啓林館」です。この2者について、具体的に説明します。

東京書籍。

第2の観点①、学習内容に関して発展的な内容を、日常生活や身近な自然現象との関連を図った読み物資料、「From Japan 世界につなげる科学」、「つながる科学」を掲載しており、先進的な科学を紹介しながら、興味・関心を高める工夫となっている。3年122ページ、144ページなどをごらんください。

②各学年の巻頭に探究の過程を示している。各節ごとに課題が設定しており、ページ下部の各段階のタブに色をつけ、その学習が探究の過程のどの段階かを示しており、課題意識や見通しを持たせるのに効果的である。3年12ページなどをごらんください。

第4の観点①、巻頭に目次と関連させてQRコードやURLを示し、インターネットを活用する場面を提示している。安全のための注意や学習の過程を示すマークが一覧で示されている。3年の298ページには広島市の水害の石碑などが出ております。3年5ページにはQRコード、安全のための注意が出ております。

啓林館。

第2の観点①、幅広い視点で、日常生活に関連する科学コラム、「部活ラボ」、「お料理ラボ」、「お仕事ラボ」、「防災・減災ラボ」、「深めるラボ」などを掲載しており、身近な現象や仕事を科学的に捉えることから主体的な学びにつながっている。3年119ページ、199ページ、309ページなどをごらんください。

②各学年の巻頭及び巻末に探究の過程を示している。各単元に「探Q実験」を設定し、仮説、検証という探究の過程に沿った学習活動が意識的に行えるようになっており、科学的思考を学ぶことができる。3年127ページ等をご覧ください。

第4の観点①、巻頭の「この教科書の使い方」、「もくじ」に教科書の構成や安全のための注意、学習の過程を示すマーク、QRコードやURLが一覧で示されている。3年106ページなどを例としてご覧ください。

以上です。

○佐藤教育長 ありがとうございます。

ただいまの説明をお聞きしますと、東京書籍と啓林館、この2者が特徴的で評価に値するということの説明をいただきましたけれども、この2者に絞って質疑を進めるということによろしいですか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○佐藤教育長 では、2者に絞って質疑を行いたいと思います。御質問ございますか。

○奥田委員 説明があったかと思うのですが、理科における実験のあり方について、わかりやすく、そしてその記述が充実しているのはどちらでございましたか。

○信木会長 東書は他教科などでは学習の流れをつかむっていうことに優れたところがあるのですが、特に実験について見ると、このページの下タブに色をつけて、今ここをやっているってことを示しているだけで、少しそこは弱いかなと。啓林館では探Q実験というのが設けられているのですけれども、仮説を立て、計画を立て、それを検証していくという科学的な探究のプロセスが明確に示されていて、この点が高く評価できると考えています。

○奥田委員 私も、そういう実験の説明、目的、そしてそれをどういうふうに集約していくかというそういう記述については非常に充実しているなというふうに思います。それはまた理科への興味・関心にもつながることでしょうから、学習意欲にもつながるということで、そういう点でトータル的に理科の教科書として、中学生には実験を通して理科的なものをしっかり考えて理解させるという点で啓林館のほうが優れているのかなというふうには私は考えました。

○豊田委員 啓林館のほうの教科書の中に、理科と数学とのかかわりとかというところがありました。やはり教科を考えていくときに、他教科とどういうふうに関連するのか、特に理科が他教科の何とどうつながっていくのかというふうなことを見ていくのには、この啓林はなかなかよくできているなと思いまし

た。それから、東書のほうはやはり表現の仕方ということで、レポートを書いてみようとか、それから結論を表現してみようとか、それから活用のところで学びを生かして考えようとかというあたりは随分よくできているなと思いましたが、先ほどの実験のこともございましたけれども、学ぶ過程が非常にはっきりと示されていて、理科的に考えてみると啓林がいいのかなというふうに思いました。

以上です。

○信木会長 最初に御指摘くださった他教科との関連については、カリキュラムマネジメントと呼ばれていて、今これはどの教科でもひとつそこを意識しているということになっている、ある意味注目ポイントになっていると思います。

それと、今おっしゃられた後半の言語化するというのは私もすごく重要なポイントではないかと思っていて、実験して、それで終わった、経験しましたというのでは理科の学力につながっていかないのではないかというふうに考えています。これは選定委員会でも議論の中で出たことなのですけれども、経験した、実験をしたということが科学的概念で説明されていかないといけない。科学的概念になっていかないといけないということが重要だということが選定委員会でも出てまいりました。特に尾道の中学生は説明が苦手な傾向にあるというのが選定委員の中からも一つ課題として出されたという経緯もありまして、科学的概念でまとめていくということを特に重視したいなというのが選定委員会の意見です。

○佐藤教育長 ほかにございますか。

○村上委員 デジタルコンテンツの件ですけども、甲乙つけがたいということだろうと思うのですが、私としては啓林のほうが若干数も多いしいかなと、若干ですが、と思っているのですが、その点は両者どのような違いがあるのでしょうか。

○信木会長 はい。実はこれも選定委員会で優劣があるだろうかということは議論したのですけれども、多少量の差はありますけれども、質的な優劣はないと判断いたしました。

○村上委員 量は啓林のほうが。

○信木会長 そうですね、はい。

○佐藤教育長 ほかにございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○佐藤教育長 ある程度皆さん意見はそろっているかなと思いますので、このあ

たりで休憩を5分とりたいと思います。

午後2時48分 休憩

午後2時53分 再開

○佐藤教育長 それでは、再開をしたいと思います。

引き続き会長さんのほうの説明をお願いしたいと思いますが、音楽一般についてお願いをいたします。

○信木会長 はい。音楽一般について御説明申し上げます。

報告書をごらんください。

音楽一般の発行者は教育出版と教育芸術社の2者で、この2者の特徴を説明いたします。

教育出版。

第1の観点②、1年では「夏の思い出」と「赤とんぼ」、2・3年では「花」と「荒城の月」等、関連のある楽曲を続けて掲載している。学習のポイント、楽譜、歌詞、作者の写真や紹介文等を掲載している。「A Message for you」や曲のゆかりの地、歌詞に関係のある情景の写真等を掲載している。具体例はお手元の資料をごらんください。

第4の観点②、目次ページにQRコードが掲載されており、主要教材ページにはマークで関連を示すことで資料の活用の工夫をICT環境への対応とともに示している。具体例は資料をごらんください。

教芸。教育芸術社の第1の観点②、7曲とも共通のタイトル「心の歌」として取り上げている。学習の目標、楽譜、歌詞、作者の写真と紹介文を記載するとともに、作詞者の言葉、作曲者の言葉や曲に関する写真等を掲載している。具体例、お手元の資料をごらんください。

第3の観点②、第1学年は歌唱教材、鑑賞教材、合唱曲集、楽典、国歌「君が代」の順で配列しており、創作については関連する歌唱教材及び鑑賞教材の後に配列している。第2・3学年は、歌唱教材、創作、鑑賞教材、合唱曲集、楽典、国歌「君が代」の順で配列している。生徒が音楽に興味を持つ資料が豊富に用意されている。例をごらんください。

第4の観点②、主要教材の見開き右ページ下にQRコードを掲載し、資料の活用の工夫をICT環境への対応とともに示している。

以上です。

○佐藤教育長 ありがとうございます。

御意見、御質問を受けたいと思いますが、いかがでしょうか。

- 村上委員 教芸と教育出版のデジタルコンテンツ、特に楽器のほうですかね、器楽のほうの……。
- 佐藤教育長 今音楽一般でいっていますので。一緒にいったほうがよかったですか。
- 村上委員 ただ、差が余りにもあるのではないかなとちょっと思うのですが、数等が。後でいいです。
- 信木会長 選定委員会は、そのQRコードで示すICTコンテンツについての優劣の差ということは出なかったですね。特に実技教科ですから、実際の実演しているところを見せるということの有効性はあると思います。
- 佐藤教育長 この2者の際立った特徴といたらどうということになるのでしょうか。
- 信木会長 これも調査委員の先生方の意見を踏まえながら選定委員会で話し合ったことでは、教出のほうは専門性を高めるのには適しているというそのプラスの面と、ただそのことが逆に苦手な生徒にとっては難しい印象を抱く可能性があるということも指摘されています。教える側も同時に専門性が求められることとなりますので、そうした課題は残るかなという判断です。対して教芸のほうは、子供たちに興味や関心を喚起するような写真や資料が豊富にあること等もあり、音楽が苦手な生徒にも教科書を開いて読んでみたくなるという工夫があるというふうに評価しました。
- 佐藤教育長 関連して、小学校であれば今先生が言われたようにいろんな子供が興味、関心を持ってということもあるのでしょうか、中学校の音楽の先生ということになれば専門的な立場の方ということになって、そのあたりは何か意見が出たでしょうか、選定委員会のほうで。
- 信木会長 はい。中学校の先生は御専門の先生ではあるのですが、現場の様子についてはちょっと事務局のほうで補っていただければと思いますが、いかがでしょう。
- 事務局 先生は確かにそれぞれ専門の先生ですが、選定委員会等で話になったのは、子供たちがそれにかかるときに音楽の苦手な子もちょっと吹いてみようかなとか、ちょっと読んでみようかなとか、そういったところがこれからの学びにつながるのではないかとということで、子供目線で考えたときということでお話が進んでいたように思います。
- 佐藤教育長 音楽で言えば学級づくりとか人間関係づくりというのが非常に大事になってくる。音楽コンクールなんかもあります。そういう意味でいった

ら、やはり教出よりも教芸のほうが参加しやすい、集団づくりがしやすいというふうに思ってよろしいでしょうか。

○信木会長 今おっしゃったように、音楽という教科の特性上、協働的な作業というか活動がやっぱり重要になってくるわけですから、苦手意識を持たせないという点ではより重要なことになるのではないかなど。得意な子だけがその集団を引っ張っていくではなくて、集団全体の質が高まっていく、協働的な活動ができるというのはおっしゃるとおり重要な点だろうと思います。

○佐藤教育長 ありがとうございます。

ほかにございますか。よろしいですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○佐藤教育長 次の器楽合奏に移りたいと思います。

○信木会長 はい。音楽器楽合奏について御説明申し上げます。

報告書をごらんください。

発行者は教育出版と教育芸術社の2者で、この2者について説明いたします。

教育出版につきましては、第1の観点②、各楽器の各部の名称、姿勢と構え方、奏法等を写真や図で示している。三味線の三線譜や箏の数字譜を取り入れている。楽曲数が多く、多彩な曲に触れることができるようになっている。具体例、お手元の資料をごらんください。

教育芸術社は、第1の観点②、各楽器の構造や種類、姿勢と構え方、奏法等を写真や図で示すとともに、「和楽器こぼれ話」、「演奏を聞こう」、「楽器を知ろう」のコーナーを設けている。箏と三味線では、五線譜に加え、一般的によく用いられる奏法譜、箏は家庭式縦譜、三味線は文化譜を併記し、読み方を詳しく説明している。また、楽曲数が多く、多彩な曲に触れることができるようになっている。具体例は資料のとおりです。

以上です。

○佐藤教育長 ありがとうございます。

○村上委員 デジタルコンテンツの量と質が全く違うのですけども、できない子は家庭で、家に帰って練習もしたいと思うはずですが。その際にやっぱり動画等がたくさんあるほうがいいのではないかなと思うのですけども、委員会のほうではそういった点は何か意見があったのでしょうか。

○信木会長 委員会のほうでは、デジタルコンテンツの優劣という意見はありませんでした。ただ、御指摘のように家庭学習まで考えたときには、デジタルコンテンツが豊富にあるほうが、自学自習で興味を持って取り組むということに

については有効だというふうに思います。授業時間に扱えるデジタルコンテンツ自体は、基本のものだけということになるのだらうと思いますけれども、家庭学習のところまで視野に入れますと、豊富にあるほうが望ましいとは思いますが。

○佐藤教育長 私はよくデジタルコンテンツを見ていないのですが、どちらがどう多いのでしょうか。

○事務局 今映しているのが教出ですけど、教出はこういった範奏とか歌をパートごとに歌っている、一般のほうでは、声であるとか歌声であるとかというのが入っていますので。

○佐藤教育長 それは一般のところ、器楽。

○事務局 これは器楽です。それぞれいろんな楽器を実際に演奏している様子などが入っています。教芸のほうは、どちらかというところと作者の言葉とか作者の紹介や作詞作曲者のプロフィールであるとかそういったところがメインで載っています。

○信木会長 教科書の目次をリンクしていませんか、下のところ。

○事務局 それが今の51ページ。

○信木会長 その作者ではなくて、メニューの下。そこはリンク張ってないですかね。ここで具体的内容に入ります。最初のメニューだけ見ると、作者の紹介みたいなのが並んでいるので少なく見えるのですが、それぞれの教科書の章のところへ飛ぶと、より細かなコンテンツが出てくるということになっています。

○村上委員 動画は。

○事務局 動画はあまりありません。やはり作者のプロフィールとか。

○村上委員 音声は多いですけど。

○事務局 多いです。

○信木会長 章の内容のほうは動画の教材もなかったですか。

○事務局 あまりない。

○信木会長 音声教材ばかりですかね。

○事務局 そうです。

○佐藤教育長 教出のほうは楽器の演奏なんかもあったのですか。

○村上委員 あります。リコーダーを吹いているのが映っているので、家でできるかなと。

○佐藤教育長 実際楽器も学校でそろえられないものもありますから、興味がある人がそういった音を聞いてというのも大事ですよ。

ほかに御意見。

○木曾委員 デジタルコンテンツとしては、今見せてもらったように、もしかしたら教出のほうがいいのかもわからないのですが、音楽との関連性として、指導する上で、教科書の出版社がやはり一緒のほうがいいのですか。一般と器楽と。別々でいいのであれば別々の視点で見ればいいのですが、トータル的なことで考えたときに、やはり同じ出版社というほうが指導しやすいというか。

○信木会長 この点については、調査委員の先生にもお伺いしましたし、それから選定委員会でもまとめましたけれども、結論からいいますと、同じ編集になっているほうが使いやすいかといえば使いやすいです。ですが、必ずしも同じである必然性はないという程度の認識です。

そのそれぞれの者のすぐれた点があるので、何をどのように教えたいかによってその評価が変わってくるということでした。より専門性が高い、特に技能の習得ということからすると教出ですね。子供たちに意欲を喚起したいと、基本的な技能、基礎・基本のところをといたときには、身近な楽曲を使いながら基礎・基本を学ばせたいということになると教芸だろうっていうふうに、その評価ポイントというか評価すべき特徴が違っているということになります。よりどちらを重く見るかということですね。

○佐藤教育長 さっきの一般のほうでは教芸がというような感じで思ったのですが、先生が流れとしたら同じほうがいいけど特にこだわらないといたら難しくなりましたね。

○奥田委員 実際その授業の展開の中でこの教科書がどう使われるのか。いわゆる音楽の教科書として、音楽の授業と音楽合奏という独立してそれぞれ授業があるのか、単位時間当たりどのぐらい割り当てられているのか、そのあたりを事務局、説明していただければと思うのですが。

○佐藤教育長 そうですね。それがあると判断しやすいですね。

○事務局 時期によって、さきほど教育長さんも、楽器が学校にあるもの、ないものがある。琴なんかであると学校を回ってくるので、回ってきたときに器楽のほうで琴をやらないといけないし、やっぱり芸術祭に向けてだと一般のほうで合唱をしっかりやるであるとか、年度当初は理論をしないといけないので一般のほうでというような形で織りまぜてあるっていうことにはなると思うのですが。

○佐藤教育長 週当たり。

○事務局 週当たりは……。

- 佐藤教育長 合わせて週当たりといたら。
- 事務局 週1とか。
- 佐藤教育長 1ぐらいよね。
- 事務局 はい。
- 信木会長 その割合は学習指導要領で示されていると思います。ちょっとまた調べておいてください。
- 事務局 調べてみます。
- 佐藤教育長 それで言えば一般と器楽が同じほうがやりやすいような感じはしますね。
- 信木会長 慣れの問題としてなんでしょうね。ただ、実際には今はこれ、次はこれというふうに切りかわっていくわけですから、不可能ではないですね。選定委員会とすると、調査委員の先生への質問では、積極的に変える意味はないというぐらいの判断はありました。積極的にこちらがということがあれば別ですけれど。
- 奥田委員 これまでは大体一緒に使われてきたということですね。
- 杉原学校教育部長 シラバスを見ても確認できないですね。シラバスを見ても一緒とは言い切れない。また、調べます。
- 佐藤教育長 きょうの場ではいいです。次の議論をするときにということにさせてください。
- もう質問がないようでしたら、ある程度固まりましたので、次の美術へ移りたいと思います。
- 信木会長 はい。美術について御説明します。
- 報告書をごらんください。
- 発行者は3者ですね。全ての発行者について調査、審議した結果、特徴的であると評価いたしました各者の観点について報告します。
- 開隆堂 なし
- 光村図書 第1の観点② 第4の観点①
- 日本文教 第4の観点① です。
- 選定委員会での審議の結果、特に特徴的であると評価したものは、「光村図書」と「日本文教出版」です。この2者について具体的に報告いたします。
- 光村図書。
- 第1の観点②、〔共通事項〕への着目と視点を各題材の全ての「表現」の記載の中に具体として示している。具体例は資料をごらんください。
- 第4の観点①、A表現のほぼ全ての題材に発想・構想についてのコーナーが

設けられており、作品制作の手がかりが多く掲載されており、創作する心を育むのに有効である。デジタル資料の対応も豊富である。具体は資料をごらんください。

日本文教出版。

第4の観点①、作品を原寸大で掲載するなど大きく示し、細かい部分の表現まで鑑賞しやすく工夫されており、美術を鑑賞する心を育むのに有効である。具体例はお手元のとおりです。

説明は以上です。

○佐藤教育長 ありがとうございます。

今の御説明では、光村図書と日本文教出版の2者がすぐれているという御説明でした。2者に絞って質疑をするということによろしいですか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○佐藤教育長 それでは、御質問等があればお願いしたいと思います。

やはり、先生、特徴的な部分とすれば、先ほど言われた創作する心を育むのが光村で、鑑賞する心を育むのが日本文教出版でというそこに尽きるのでしょうか。

○信木会長 はい。簡潔にまとめればおっしゃったとおりで、少し補って言いますと、光村のほうは発想とか着想、構想といったところが重要なポイントになっていて、それが表現をする、創作をするという活動につながっていくということになります。美術という教科の特性が表現活動なのか、鑑賞なのかといったときに、より子供たちが表現する活動のほうに重点を置いた場合、やはり光村のほうはその点ではすぐれているということになります。日文のほうは、どのように絵を理解するか、芸術を理解するかという理解教育のほうになります。それについて、どちらがということについて意見を申しますと、理解のほうも、理解したことを自分の表現に生かしていくにやっぱりつながっていかないといけない。理解して受け取って受容して終わりではなくて、受容したことを今度は使って、次に新しく文化を創造するということにつながっていくということが一番大事なことかと思っておりますので、その2つの特徴、よりどちらが重要というのと、やはり美術は表現だろうと思えます。

○佐藤教育長 それが主体的なところへつながるし、対話的な一つの要素にもなるというような感じでしょうか。

○信木会長 はい。

○佐藤教育長 ほかにどうでしょうか。よろしいですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○佐藤教育長 ないようなので、それでは次に保健体育へ移りたいと思います。

○信木会長 保健体育について御説明申し上げます。

報告書をごらんください。

発行者は4者。全ての発行者について調査、審議した結果、特徴的であると評価した各者の観点について報告します。

東京書籍 第2の観点② 第3の観点②

大日本図書 第1の観点③ 第5の観点①

大修館 なし

学研 なし です。

選定委員会での審議の結果、特に特徴的であると評価したものは、「東京書籍」と「大日本図書」です。この2者について、具体的に説明申し上げます。

東書。

第2の観点②、各時間に「活用する」が設定されており、自分の生活に置きかえたり、学んだことをまとめたりする活動が設けられている。「見つける」、「課題の解決」、「広げる」の流れに沿って、見通しを持ったり、振り返ったりする工夫がある。具体例はお手元の資料のとおりです。

第3の観点②、全ての単元において発展的な学習のための資料が記載されている。例えば章末資料、具体例でいうと43ページですけれども、に胎児を育てる母体の神秘、胎盤とへその緒という資料が記載されている。視覚資料によって興味、関心を喚起する工夫がある。記載内容が充実している。

大日本。

第1の観点③、各時間の学習内容のページにおいて、ポイントとなる重要語句を本文中に太字で示している。見開き構成において、確実に身につけたい学習内容は左ページの本文にまとめることで、基礎、基本が定着させやすい。また、右ページに本文に対応した資料を配置することで、本文の根拠を明確にしている。各章末で重要な言葉をまとめ、重要語句や要点を再確認できるようにしている。具体例、資料のとおりです。

第5の観点①、「学びを活かそう」で言語活動に係る学習活動について記載している。課題や事例をもとに考えを書く内容が掲載されており、記入欄を広く設けている。主体的な言語活動が行われるよう工夫されている。具体例、資料のとおりです。

以上です。

○佐藤教育長 ありがとうございます。

今の説明では、保健体育においては東京書籍と大日本図書の2者がすぐれて

いるという御説明だったように思いますけれども、その2者に絞った形で進めさせていただくということではよろしいですか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○佐藤教育長 ありがとうございます。

それでは、委員の皆様方のほうから質問等をお願いしたいと思います。

○奥田委員 教科書を2者で読んでいきましたときに、大日本図書の場合は非常にコンパクトにまとまっているような、左と右のページのところで全体が、説明のところが左、右のところがより具体的な図示されているというような、読んでいて非常に読みやすく、理解しやすいなという印象を持ちました。あと、この本のよさとして、トピックスというのが左側にかなり入っておりまして、ここのところは本当に今の子供たちが理解したらいい保健の中のポイント、保健体育の中のポイントが非常に今日的な課題としてまとめられているなということで、今日的なそういう保健体育を考える上でもポイントがわかりやすいというところがこの者のすぐれているところではないかなと思いました。

以上です。

○信木会長 おっしゃるとおり大日本のほうはポイントが明確で、大事なことは何かということが明確ですから、結果、基礎・基本の定着ということに有効な編集になっているというふうに判断します。対して東書のほうは、基礎・基本も押さえられておりますけれども、実生活での活用というところが強く意識されていることや、視覚教材が非常に工夫して有効なものが用意されているあたりのことがあって、子供たちの興味・関心を喚起して、またそれを今度は実生活に生かすといったところでまたそれを持っていくと。最初は興味・関心ですけども、最後はやっぱり活用段階まで行って本当の学力ということになりますので、そうした流れが東書のほうはより有効な工夫になっているなと判断しておるところです。

○豊田委員 東書のほうは、非常に図や表が多いなと思って見せてもらいましたのと、それから保健学習の学習の仕方、方法ということについては、他の課題学習と同じように、課題学習、課題の発見、設定、研究、まとめ、その中にディスカッションを随分入れてあるなというふうなのが目につきました。それから、ロールプレイングを入れながら、非常にわかりやすい教科書の編集になっているなというふうなことも思いました。これは東書のほうです。

○信木会長 東書のほうは問題解決的な活動に特に力を入れられていて、そのことは保健体育科という教科の特性からするとより重視すべきポイントになるかと思います。知識の習得ということでは、大日本のようにわかりやすい

編集になっているということが有効になってきますけれども、教科の特性上、知っているで終わらせずに、その知識を生かして現実のいろんな場面でそれを生かして問題解決していくということが重要になりますので、教科の特性からいっても、今御指摘になった問題解決的な活動というところを重く見るということは賛成です。ただ、ディスカッション自体は大日本のほうにも用意はされております。

○佐藤教育長 ほかにございませんか。

なかなか比較検討が難しいなという、正直なところ。それぞれによさがあるのでしょうけれども、今日的なというのですかね、子供たちにその主体的、対話的なという部分とか、保健体育の教科横断的な学習の重要性なども言われている中で、どちらの教科書がいいのでしょうか。

○信木会長 知識量といたしますか、先ほどの大日本はわかりやすい反面、シンプルにまとめた反面、より詳しい記載、情報量ということになると東書のほうが優れているということになりますので、この教科に限って基礎、基本をではなくて、他教科とも横断可能な、総合的な学力ということになりますと、東書のように詳しく記載されていて一定以上の知識を、必要十分な知識が用意されているほうが関連づけられやすいとは思いますが。ただ、カリキュラムマネジメントにつきましては、各者意識はされています。

○佐藤教育長 なかなか比較が難しい。

○信木会長 わかりやすさをとるか、活動をとるかということですね。

○佐藤教育長 先ほど説明があった実生活での活用ということであれば、東書のほうがより意識をされて教科書はつくられているということだったですね。

○信木会長 はい、そうです。これからの教育に今求められていることからいうと、その主体的な活動をいかに成立するかというところが現場の一番苦心しているところですので、そこはやっぱり重く見たいとは思っています。

○佐藤教育長 選定委員会で言えば、この2つを比較すると東書だということですよ。

○信木会長 そうですね。

先ほど申し上げたことでより内容が詳しくというのは、本文できちんと内容を詳しくやっているのが東書ということなので。大日本のほうは資料としては充実しているので、中身が薄いということではないです。

○佐藤教育長 ないようでしたら、質問としてはこの程度にとどめて、次の技術・家庭のうちの技術分野に入りたいと思います。説明をお願いいたします。

○信木会長 はい。技術・家庭、技術分野について御説明申し上げます。

報告書をごらんください。

発行者3者。全ての発行者について調査、審議した結果、特徴的であると評価した各者の観点について報告します。

東京書籍 第2の観点① 第5の観点①

教育図書 なし

開隆堂 第5の観点① です。

選定委員会での審議の結果、特に特徴的であると評価したものは、「東京書籍」と「開隆堂」です。この2者について具体的に報告いたします。

東京書籍。

第2の観点①、各内容の最初のページ見開きで、左ページに「技術の見方・考え方」、右ページに「発見！技術の最適化」を掲載し、身近な製品の具体例とともに、既存の技術の工夫について示している。また、各内容第1章の最後に「チェック技術の見方・考え方」を掲載し、気づいた技術の見方・考え方についてまとめることができるようにしている。4つの領域それぞれにおいて、技術の見方・考え方を学ぶ、問題解決を行う、これからの技術について考えるという構成がされており、主体的に学んでいくプロセスが明確である。

第5の観点①、生活や社会をよりよくするための方法を考えたり、説明したりする学習活動として、「活動」、「調べてみよう」、「やってみよう」、「考えてみよう」、「話し合ってみよう」で示されている活動を取り上げている。具体例、資料のとおりです。

開隆堂について。

第5の観点①、生活や社会をよりよくするための方法を考えたり、説明したりする学習活動として、「課題」、「調べてみよう」、「考えてみよう」、「話し合ってみよう」、「確認してみよう」、「やってみよう」で示されている活動を取り上げている。具体例、資料のとおりです。

以上です。

○佐藤教育長 ありがとうございます。

質問等をお受けしたいと思いますが、東京書籍と開隆堂で、既存というか今使っているのは開隆堂です。

特に技術・家庭の分野であれば、ずっといろんな教科で出ているSDGsですよね、このあたりの考え方というのが大事になるのであろうというふうに思いますが、その辺の視点からいうとどんなんでしょうか、この東京書籍と開隆堂で言えば。

○信木会長 東京書籍は、後ろから裏表紙を開いていただいた見開きカラーのと

ころにSDGsとテクノロジーというページが出ております。やっぱり技術という教科の特性上、これからの人類が生き残っていくために、テクノロジーで生き残っていくところはどうしても重要な観点でありますので、御指摘のようにSDGsについては、技術は非常にかかわりが深いところだと言えると思います。

○佐藤教育長 今のところで言えば、開隆堂のほうは出ていなくて、東京書籍のほうにということだった。

○信木会長 いや、出てないはずはないです。

○佐藤教育長 出てないことはないのですよね。

○信木会長 場所を今検索しております。それでは、このことにかかわって少し言いますと、今の報告の途中、技術の最適化という言葉があったと思うのですが、この技術の最適化というのが、製品をつくりましたってときに、この製品を改良していく、改善していく、現実にならなくなった、もし問題が生じたときにその問題を解決するように改良を重ねていくというそうした観点なわけですが、このことをきちんと意識的に触れているのは東書ではないかと思えます。ただつくったの次ですね。新しい技術ができましたというときに、新たな問題が次々と登場するわけで、新たに登場してくる予測できなかった問題を解決していくということについての項目ですので、それがきちんと扱われているのは東書であると思えます。この点について開隆堂のほうはガイダンスの中で一部触れているだけで、各編では、それぞれの編では取り上げてないですね。東書は、各編でそれぞれにこの最適化について取り上げている。ここは高く評価しているところです。

○佐藤教育長 ありがとうございます。

○信木会長 それと今のSDGsにかかわってもう一つ言うと、技術の見方・考え方というところも、つまり技術を見方・考え方の視点から、その根本のところから捉えることがやっぱりSDGsにつなげていくために必要な部分ですので、それをやはりきちんとやっているのは東京書籍かなど。開隆堂はガイダンスにまとめているだけで、やっぱりこれも各編では触れられてないという差があると思えます。

○豊田委員 先ほどお話もありましたけれども、技術の最適化ということとあわせて、問題解決的な学習ということでは、東書のほうが評価できます。振り返りを入れながら問題解決の過程をきちんと示して、それに基づいて学習が進められているということが非常に評価すべきところかなと思いました。

以上です。

○信木会長 今御指摘いただいたところは、活動ありきで、活動だけで終わるのではなくて、きちんとそれを振り返るところっていうことを大事にしたいという御意見はまさにそのとおりで、選定委員会の意見も全く同感であります。

○木曾委員 来年度からプログラミング教育が始まりますよね。

○佐藤教育長 2020年。今年。

○木曾委員 今年から。

○木曾委員 これは技術の時間の中でプログラミングを習得していくというか習っていくということですか。これはただの資料ですか。この中に入っているプログラミングというので。

○信木会長 主要なコンテンツというか教科内容です。

○木曾委員 教科内容になるのですね。

○信木会長 はい。

○佐藤教育長 小学校が今年で、すでに中学校はやっていますよね。

○木曾委員 やっているのですね。

○木曾委員 このプログラミングという題材で、どちらの者が習いやすいというか、わかりやすいか。

○信木会長 東京書籍は4領域あると、先ほどの説明の中にもありましたけど、4領域の一つが情報技術です。これが、目次を見ていただくと、第4編が1章から4章までになっていますけども、その第2章、3章がプログラミングを扱っているところですね。これを開隆堂のほうで目次を見ていただくと、やはりこれも情報の技術という領域があるのですけれども、プログラミングとしての章として扱われてなくて、プログラミングは資料の中に出てくる。280ページからの資料の中に。というようなことがあって、プログラミングによって現実のいろんな問題を解決していくのだからっていうことを正面から取り上げているのは東京書籍だというふうに言えると思います。開隆堂のほうは扱ってはいるけども、附帯的な扱いということですね。

○佐藤教育長 ほかによろしいですか。今の説明でよくわかりました。よろしいですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○佐藤教育長 では、続いて技術・家庭の家庭分野に入りたいと思います。御説明をお願いいたします。

○信木会長 はい。技術・家庭、家庭分野について御説明申し上げます。

報告書をごらんください。

発行者は3者でございます。全ての発行者について調査、審議した結果、特

徹的であると評価いたしました各者の観点について報告します。

東京書籍 第2の観点① 第3の観点①

教育図書 第5の観点①

開隆堂 第2の観点① 第3の観点① です。

選定委員会での審議の結果、特に特徴的であると評価したものは、「東京書籍」と「開隆堂」です。この2者について、具体的に御説明申し上げます。

東京書籍。

第2の観点①、生活の営みに係る見方・考え方を意識させるための工夫として、「家庭分野のガイダンス」において、生活の営みに係る見方・考え方をマークやイラストを用いて解説している。

第3の観点①、題材は、1、私たちの食生活、2、私たちの衣生活、3、私たちの住生活、4、私たちの消費生活と環境、5、私たちの成長と家族、地域の5編で示され、それぞれ1から4章で構成されている。これからの家族と地域を1つの章として取り上げている。全ての分野で「家族・家庭の基本的な機能」に触れている。具体例は資料を御参照ください。

開隆堂。

第2の観点①、「家庭分野のガイダンス」において、「生活の見方・考え方」として生活の営みに係る見方、考え方について解説している。ガイダンスの具体例は6ページをごらんください。

第3の観点①、題材は、A、家族・家庭生活、B、衣食住の生活、C、消費生活、環境と示され、それぞれ1から5項目で構成されている。また、それぞれの題材の最後に持続可能な生活や社会を考える見解があり、評価できる。SDGsの具体例は資料をごらんください。

以上です。

○佐藤教育長 ありがとうございます。

ただいまの御説明では、東京書籍と開隆堂の2者がすぐれているという説明だったと思います。この2者に絞って質疑を進めさせていただいてよろしいですか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○佐藤教育長 ありがとうございます。

それでは、委員の皆さんから質疑があればお願いしたいと思います。

事務局に聞いてみますが、技術・家庭で教科書会社が違うのはよくあることですか。

○信木会長 今回の件につきましては、これも先ほど同じような件があったのです

けど、必ずしも同じでなくてよいが、やはり編集のデザインが共通であると使いやすいということは言えます。

○佐藤教育長 技術は、これは今違うのでしょうか。我々のときは技術は男子、家庭は女子でした。今はどんな感じ。

○信木会長 共通です。

○佐藤教育長 共通。なるほど。ということになれば、必ずしも一緒になくてもいいけど、週に1回であればそういう傾向になるというのはありますね。

○信木会長 これは本当に評価が競ったときの、どちらっていつきの判断にはなるかもしれませんが、大きな判断材料かという、やはり副次的ではないかとは思いますが。両方とも丸の数が2つではありますけれども、先ほどの編集について、章立ての順番について見ていただきましたけれども、東京書籍のほうは最後に家庭、地域を考えるようになっていきますね。その順番は身近なところから、つまり衣食住の食とかという身近なことから学んで、最後、家族を考える、地域を考える、社会を考えるというふうにだんだん抽象度が上がっていくわけで人間の学習のといいますか、発達段階とも言えますけれども、その手順からいうと具体から抽象のほうが自然な展開になっていると言えると思います。これは選定委員会の中で出たことです。

また、特に私、重視したいと選定委員会で考えていることですが、地域や家庭のあり方を大事に扱っているというのは重視したいと思います。特に尾道みらいプラン2とのかかわりもあって、家庭について考える、地域について考える、しっかり考えを持つっていう、それをつくっていくってことは重視すべきことなのではないかなと思っています。これは選定委員会の意見としてそのような意見を持っています。

○佐藤教育長 今回の部分は東書がいいですよという御説明と理解すればよろしい。

○信木会長 はい。我々が重視したいことをきちんと扱っているということですね。

○佐藤教育長 そのほかに御質問、御意見ありますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○佐藤教育長 それでは、次の英語に移りたいと思います。御説明をよろしくお願いたします。

○信木会長 英語について御説明申し上げます。

報告書をごらんください。

英語の発行者は6者。この6者全てについて調査、審議した結果、特徴的で

あると評価した各者の観点について報告します。

東京書籍 第2の観点① 第5の観点①

開隆堂 第2の観点① 第5の観点①

三省堂 第5の観点①

教育出版 第5の観点①

光村図書 第5の観点①

啓林館 第5の観点① です。

選定委員会での審議の結果、特に特徴的であると評価したものは、「東京書籍」と「開隆堂」です。この2者について、具体的に説明します。

まず、東京書籍。

第2の観点①、単元冒頭に扉として、写真をもとに生徒とやりとりをし、題材内容の興味を高めるとともに、ユニット本文前に文法の「目的」、「場面」、「状況」を示す音と映像を見て気づきを促すプレビューを設定している。また、「Let's Talk」や「Let's Listen」、「Let's Write」に豊富な日常の場面を設定することで主体的な学習活動につながっている。学んだことを活用する学習について、目的を明確にし見通しを持って活動できるよう、よく工夫されている。具体例は資料をごらんください。

第5の観点①、「Let's Talk」や「Let's Listen」、「Let's Write」に日常の場面を設定し、Step1から3で「話すこと」「聞くこと」「書くこと」などの活動を設定している。場面設定が豊富に用意されている。具体例は資料のとおりです。

続けて開隆堂。

第2の観点①、単元冒頭にとびらとして、写真や簡単なリスニングで題材への興味づけを行うとともに、マンガ形式の短い対話で新出表現を理解するシーンを設定して、英語で表現する活動への興味を高めている。学んだことを活用する学習について、目的を明確にし見通しを持って活動できるよう、よく工夫されている。具体例は資料のとおりです。

第5の観点①、「Scenes」や「Power-Up」に日常生活の場面を設定し、各技能の活動を設定している。2年の112ページにPower-Upの例があります。

報告は以上です。

○佐藤教育長 ありがとうございました。

ただいまの英語の説明では、東京書籍と開隆堂の2者が特徴的です。評価が高いという御説明だったと思います。その2者に絞った形で審議してよろしいですか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

- 佐藤教育長 それでは、質疑をお願いしたいと思います。現行は東京書籍ですか。
- 信木会長 現行は東京書籍ですね。
- 村上委員 同じくデジタルコンテンツのことですが、東京書籍が一番よくできていると個人的には思うのですが、その点何かお話が出たでしょうか。
- 信木会長 デジタルコンテンツ自体は各者あるわけですが、東京書籍は、有効な使えるものになっているということは認めております。
- 木曾委員 英語はふだん使わないと身につかないものだと思うのですが、より日常的に活用しやすい題材を採用していたり、載っていたりというのはどちらですか。
- 信木会長 英語科の特性にかかわる御質問だと思うのですが、やはり活用して身につけてということが非常に重要な教科になりますので、その活用場面についてどちらが有効かということをお説明いたしますと、それは一つには場面設定をどんなふう用意しているかということにあらわれていると思います。2者それぞれに実際活用する場面というのは用意されています。これはこの2者に限らず他もそうなのですが、ただその場面設定の工夫ということについては東京書籍ではないかなと考えています。というのが、豊富な日常的な場面を設定していますので、こんなときにこういう場面でどんなふうに英語表現したらいいのだろうというような、ある意味実用に供するといえますか、自分たちが実際に生活する場面の中での英語を学ぶということから具体的なイメージが持ちやすい。ひいては主体的な学習活動になっていくという点で東京書籍を評価しております。
- 佐藤教育長 ほかにございますか。
- 信木会長 今の点に少し補足すると、開隆堂のほうは、その点をマンガ形式の対話などを示すことで、こんな場面では英語ではこんなふうに表現するという活動を、興味を高めていくというような形にはなっていて、配慮はされていますけど、比較した場合には今の御質問では東京書籍のものを高く評価しているということです。
- 豊田委員 小学校で英語活動、英語科が入ってきて、それからそれを受けた小学生が中学生になるわけですが、割と英語嫌いっていうのを最近よく耳にしたりします。私も尾道学園へ少し出ていますけれども、その中でよく聞くことが、広域に学校へ来ておりますから、小学生の中で英語が好きでないという子が大分いますね。そうすると中学校になったときの英語を学習するときの学び

の支障になりますから、教科書がすごく大事だと思います。そうすると、そういう観点で私は少し比べてみたのですけれども、東書の場面設定であったり、子供たちが活動する場とか状況とか、そういったものを見たときに非常に読みやすいといいますか、見やすいかなと思って見たのですけれども、教科書をそのまま教えるわけではないのですが、教科書で教えるということになると、こういうモデルになるような場面を自分の生活経験と結びつけて見やすいように学んでいけば解消されるかなというふうな希望を持っているのですけれども、やっぱり外国語科が小学校から入ってきたというその重要性はもちろんよくわかるのですが、その入ってきたことが子供たちにとって非常にいい学びになるように、英語っておもしろいねっていうふうなことにつながるようなそういう視点でこれからは中学校も見ていかないと、小学生を受けるわけですから、そういうことを思って東書がいいかなと思いました。

○信木会長 英語を好きになるという御指摘、御意見、全く同感でありまして、これについて私はちょっと2つポイントがあるかなと思っているのですが、今おっしゃっていただいたことの、要するに教科書の親しみやすさといいますかおもしろさといいますか、教科書自体が子供たちを引き込んでいくというところも一つあると思いますが、それに加えて2つ。1つは、学ぶ価値がわかる、英語を学ぶということの意味っていいですか意義といいですか、そのことが実感できるというのが1つ。もう一つは、英語で表現する楽しさを味わう、体験するということがあるかと思っています。価値がわかる、楽しさがわかる。このわかるというのは頭でわかるではだめなわけ、やはり実感するといいますか、体得するといいますか、身をもってわかるでないといけないと思います。となりますと、やはり実際の場面といいますか、活用する場面で実際にやってみて、ああ、できた、楽しかったっていうような学びを体験してもらう必要があるのだらうと思いますね。最初の御質問ともかかわるものですが、そうした意味では日常生活の場面設定が工夫されていて、子供たちが活用する場面というのが工夫されているということがやはり重要になってくるのではないかなと思います。

もう一つ、小学校から英語が始まったことによる、早く始めたことによる英語嫌い問題もありますけど、もう一つは、早く始めたのだから中学校は前と同じ英語ではだめで、より高い学力を身につけることが求められるようになってくるわけですが、その中学校で学ぶ英語の充実については、これは各者きちんとできていると評価しております。

以上です。

○佐藤教育長 ほかにございますか。

○奥田委員 先ほどからの議論の続きになりますが、小学校と中学校の接続、スムーズな接続ということですが、東書を見ていますとこの小学校のマークというのがあって、これは小学校で習った単語ですよという表示があるということ。小学校は東京書籍でしたかね。なるほど。そういう観点で見ても、小中の連携というのはうまくこれでいくと図れるというところがありますね。それから、教科書的にやっぱり先ほど議論がありました場面というのが明確になっていますので、そういう中で勉強しやすいような、とりかかりやすいような構成になっているように思いました。

以上です。

○信木会長 小学校とのつながりにつきましては、今御指摘になったのと全く同意見を選定委員会では持っております。

○佐藤教育長 ありがとうございます。まとめていただきましてありがとうございます。

最初は時間が押していましたが、時間にゆとりができましたので、休憩したいと思います。

午後 3 時 51 分 休憩

午後 3 時 56 分 再開

○佐藤教育長 休憩を解きまして、次に道徳に入りたいと思います。よろしくお願いたします。

○信木会長 特別の教科道徳について御説明申し上げます。

報告書をごらんください。

発行者は 7 者。これら全ての発行者について調査、審議した結果、特に特徴的であると評価いたしました各者の観点について報告します。

東京書籍 第 1 の観点① 第 2 の観点① 第 4 の観点①

教育出版 第 1 の観点②

光村図書 第 4 の観点② 第 5 の観点②

日本文教 第 2 の観点② 第 3 の観点② 第 4 の観点①

学研 第 4 の観点①

廣あかつき 第 4 の観点① 第 5 の観点②

日本教科書 第 2 の観点① です。

選定委員会での審議の結果、特に特徴的であると評価したものは、「東京書

籍」と「日本文教出版」と「廣濟堂あかつき」です。この3者について、具体的に説明申し上げます。

まず、東京書籍。

第1の観点①、巻頭折り込み3ページにわたって、学習の流れをショートストーリーを用いてわかりやすく示しており、学習の見通しがある。

第2の観点①、全教材の冒頭にテーマを設定し、導入で問題を提起してから教材に入るという流れがつけられており、問題意識を喚起し、学びの意欲を高めるものになっている。

第4の観点①、テーマや教材名の下にマークを使い、豊富なデジタルコンテンツ、関連して扱える教材があること、心情円を活用できることを示している。

続けて、日本文教出版。

第2の観点②、教材の後に「学習の進め方」のページが丁寧につくられており、どんな体験をして、何について考えるのかをわかりやすく示している。参考例を設けて学習のステップを示すことで、迷わず学習を進めたり、体験的な活動を実施するための工夫が行われている。

第3の観点②、扉ページ、「『いじめ』と向き合う」を設定し、いじめを直接的、間接的に扱った教材とコラムをユニット化し年間で複数配置しており、いじめを自分たちの問題として、問題解決に取り組めるように工夫されている。

第4の観点①、目次及び該当教材のページ、別冊「道徳ノート」にマークを使い、問題解決的な学習や体験的な学習を扱う教材を示している。

あかつきの第4の観点①、教材文の終わりに木の葉のマークを使い、先人や現在活躍している著名人の言葉を掲載している。

第5の観点②、別冊「中学生の道徳ノート」の巻末に、伸ばしていきたいことや今後の目標についての振り返りを書く欄と教材ごとの学習の振り返りをチェックする折り込みのページを設けており、自問と内省を導き、道徳的価値を深く学べるものとなっている。

以上です。

○佐藤教育長 ありがとうございます。

ただいまの説明では東京書籍、日本文教出版、あかつきの3者が特徴的で評価に値するということでしたが、この3者に絞って質疑をするということでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

- 佐藤教育長 では、質問をお願いいたします。
- 村上委員 日本文教出版社のほうは別冊になっているのですが、これの有用性といいますか、提出させるとか何かそういった使い方はあるのでしょうか。
- 信木会長 これは調査委員の先生に同じ質問を私からしたところですけども、これは使えると、実際に実用になるという御回答をいただいております。
- 村上委員 やはり提出する。
- 信木会長 そうですね。提出させてということですね。その生徒と教員の間で行き来するということがやはり大事なのではないかなと思います。感想とかを書いて、出されただけ、そこで終わったのではなくて、双方向的に行き来する中で教科が深まっていくのではないかなと考えています。
- 佐藤教育長 ほかにどうですか。
- 中学校の道徳の教科書は新しく始まって教科化されて2年目。今、多分日文の教科書だったと思うのですが、使ってみての評価とか、使い始めたばかりでとかいうような意見は調査委員会とか選定委員会ではなかったですか。
- 信木会長 現行使っているものについて特に問題はないということは確認しております。
- 佐藤教育長 変わるということについての部分で何かがあったということもないですか。
- 信木会長 そうですね。同じ者であっても、編集自体新しくはなっていきます。先生方の教材研究や準備からいえば、現行扱っているものと余り大きく変わらなければ、その分の労力自体は少なくはなりますけれども、だからプラスに評価というふうには選定委員会ではしていません。それはメリットではあるのですが、だから選ぶということではありません。ただ、日文につきましては、特にいじめについての扱い方については選定委員会では高く評価しております。尾道の子供たちに学ばせたい、道徳の中で特に重点を置きたいところということで、日本文教出版の扱いは評価しております。
- 木曾委員 今言っていたいじめに関しての捉え方というか扱い方ですが、日文がどんなふうにすぐれているというか、他者に比べて有効なのか教えてください。
- 信木会長 最初のページ、扉のところからいじめと向き合うというのが出てきて、24ページが最初に出てくるページですけども、こういう大きな扉のところで始まって、さまざまな角度から年間を通じて、例えば最初で終わりではな

くて、継続的にいろんな側面からこの問題を我が事として捉えて解決していこうというそういう狙いで編集されていることを評価しています。観念的な理解で終わったのでは全く意味のない問題ですので、いかに自分が、何ができるか、自分はどうすべきかという我が事として考えさせたい。しかも、そういえばやったなではなくて、継続的に深めていってほしい問題ですので、そういうテーマですので、こういう扱いになっていることを評価しているところです。

○**豊田委員** もう一点、道德の授業の中で対話する、議論する道德ということが上げられておりますけれども、そういう面で学習の手引きとか、それから発問が幾つかありますけれども、会社によって多少は違うようにも思うのですが、もしわかれば、日文のほうを使ってみて、そういう議論をする道德で、さらに自己の内省を深めていくことにつながっているというような事例があったのかどうか。

それから、あわせてもう一つ、こういうふうに手引きが書かれていますが、そのこととそれから議論する内容がうまく照合しているのかどうか、これがびたっといっているのかどうかということですね。そういうので、もしありましたら教えていただきたいと思います。

○**信木会長** 道德科では特に考え議論するという今御指摘の、他教科でいえば言語活動と言われる領域で、項目でいうと第5の観点でそれを示すことになりましたが、これは各者力を入れてやっているところではありますので、特にどの者がということではないのですが、どの者もきちんとやっていることではあるのですが、それぞれの特徴について言いますと、東書は教材ごとの終わりの設問、おっしゃっていただいた学習の手引きのところですが、手引きのところ自分の考えを書く欄とかグループで話し合ったことを記入する欄というのが設けてありまして、それを教科書のつくりとして、考えたり話し合ったり書いたりすることが用意されているというところが東書ですね。

日文は、最初の学習の進め方、道德はこんなふうに学びを進めるというところに、自分で考えてみようの後に問題について考え議論しようというふうになっていて、道德の学習は議論することだということを学習の進め方のところから既に明確にしているということです。ただ、ただ話し合ってみなさいといっても議論が深まらない、ありきたりなこと、例えばこんなふうに答えておけば先生はオーケーでしょってというようなことを答えてもらったのでは道德の授業の内実が浅いものになってしまいますので、子供が自問をして、既にわかっていると思っていることを、知っているとかわかっているつもりになっていることを問い深め、考え深めてほしいというのが私たちのありたい学習だろうと思

います。そのときの考えるためのヒントとといいますか、きっかけとといいますか、といったようなものを日文は示してあるなど。知っているつもり、わかっているつもりだけど、そのわかっているつもりだったことにちょっとほころびを入れて、うんと考え始めるようなきっかけづくりというようなところで考えるヒントが出ているところが日文の特徴としてはあるかなと思いました。

あかつきにつきましては、やはり考える、話し合うという欄が教材ごとの最後に設定はされています。同じように考えるための手がかりとかヒントかというものがありますので、これも用意はされています。

おっしゃったことは、道徳科においては非常に大事なポイントだと思って、選定委員会のほうでも重視しているところですよ。ただ、どこがよりすぐれているかということ、それぞれに今のような特徴でアプローチしていますということですよ。

○佐藤教育長 ほかにいかがでしょうか。

前は今日的な問題ということではじめとか国際交流とか主権者教育とかいろんな項目で比較をしましたが、そういうような議論は選定委員会で、あるいは教育委員会の中でいろいろ選ぶに当たって議論をしましたが、何か選定委員会の中でもあったのでしょうか。

○信木会長 扱っている内容自体は強弱とといいますか、どこによりページを割くかみたいな差が若干あるのはありますけど、例えばはじめなんかの扱いで差はありますけれども、何を扱っているかということについては、各者きちんとするべきことを全部扱っていることは間違いのないと思います。

○佐藤教育長 それでは、そういうところは重点を置いてはないということですね。

○信木会長 はい。

○佐藤教育長 わかりました。ありがとうございます。

よろしいですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○佐藤教育長 ある程度方向性も出ましたので、これをもって道徳の議論も終わりたいと思います。

皆さん方のおかげで予定の時間よりも早く終わることができました。信木先生に、質問を漏らしていたとか、何かこのことは改めてお聞きをしときたいかということがありますでしょうか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○佐藤教育長 以上で各教科の信木会長さんへの質問を終結したいと思います。

これで16種目において質問、御意見をいただきました。今までの審議で漏らしたことがありましたら御意見をいただきたいと思いますと思いますが、もうないということでしたね。信木会長さんには長い時間ありがとうございました。心から感謝を申し上げます。

○信木会長 ありがとうございました。

○佐藤教育長 ありがとうございました。それでは、こののち教育委員会としての審議に入るわけですが、本日の選定委員会会長からの説明を踏まえ、次回の教育委員会議において、1種目ずつご意見をいただき、尾道市の子供たちにとって、よりよい教科書を採択してまいりたいと考えております。

本日、ある程度絞られた種目もございましたが、そうでないものについては、改めて8月27日の教育委員会議においてご審議いただくこととします。よろしく申し上げます。

これをもって本日の会議を散会すると同時に、第9回教育委員会議臨時会を閉会いたします。

お疲れ様でした

午後4時20分 閉会